

# 教育実習生のための授業の手引き

## 手 引 き 部 会

### ま え が き

この『授業の手引き』は、教育実習で最大の分野を占める教科の学習指導に際し、実習生が配慮し、研鑽し、養成しなければならない、主として方法的・技術的事項を、実習生指導の立場から記述したものである。

いうまでもなく、本書は本校の永年にわたる教育研究の一つの成果である。

金沢大学教育学部の全付属学校のあいだで、昭和52年度後期、付属学校の責務を果たす方途の一つとして共同研究が企てられ、そのテーマが「のぞましい教育実習のあり方——現状をふまえて——」と決まった。53年から3ヶ年継続の5付属学校共同研究が行われ、これに対して文部省から教育改善経費が割り当てられた。53年に実態調査、54年に指導法、55年に評価の問題が取り上げられ、それぞれの研究の結果は、毎年然るべき機会に発表し、教育実習関係機関に相当の貢献ができたと自負している。

付属高校においては、この共同研究に平行して、本校における教育実習の経験を集大成し、「普通科高等学校における教育実習の指導」について体系的研究をすすめることにし、第一段階として実習学生の勤務・実習態度の指導に関して、54年に『教育実習ノート』を改訂印刷した。第二段階としての教育実習生の授業のための指導書の作成は、55年度にほとんど仕上がったのであるが、主として財政上の理由で出版が延期されていたものを、56年度に入り手引き部会により再検討してでき上がったのが本書である。したがって、本書の完成までに、本校のほぼ全教官が関与したが、編纂の仕事にたずさわったのは、上田外志夫、小倉幸春、榎本英彦、鏑木光朗、木ノ本正夫、木村明人、梶英子、高橋俊和、鉄車佳司、中原吉晴、松田章一であった。

教育実習、なかでも中等教員志望者の教育実習は、実施面で深刻な問題がある。全国で毎年、十数万人の大学生が中学か高校で実習しているが、受け容れる学校は、実習の指導に習熟している付属学校のシェアが少い。教育実習にあまり慣れない学校における実習生指導は、とかく不徹底になり易い。しかも、中学・高校で行なう教育実習についての実際的な指導書はまだ市販されていない、ようである。したがって、中等教員志望者の教育実習には、厄介者扱いで、指導法も十分にわからないまま、御座成りに実施されている場面が多い。

本書は、本校で教育実習をする学生の一つのテキストとして作成したものであるが、さらにひろく、高校で教育実習の指導をするさいの参考になれば、と願っている。また、本書の内容は、ほぼそのまま、普通科高等学校の授業の指導書でもある。本書が教育実習の一つの指導書としてだけでなく、高校教師の自己研修の参考になれば、望外のよろこびである。

本校には芸術科専任教官がいないので、本書の一般篇の記述に芸術科に関する事項が含まれていない。各教科篇芸術科については山瀬晋吾講師による。

## 目 次

### 一 般 篇

1 実習生学習指導 .....	4 頁
2 指導計画の立案	
A 教材研究の仕方 .....	4
B 指導法の研究 .....	6
C 授業理解度の研究 .....	6
3 授業における教材の精選, 配列および時間配当	
A 授業における教材の精選とその配当 .....	6
B 授業における時間配当 .....	8
4 学習指導案の書き方	
A 学習指導案が備えねばならない要件 .....	10
B 学習指導案の形式例 .....	10
5 指導上の留意点	
A 授業前の留意点 .....	12
B 授業時での留意点 .....	13
C 授業後の留意点 .....	15
6 教育実習における観察・記録・評価	
A 授業の参観 .....	15
B 学習指導案に基づく授業過程の分析・評価 .....	16

### 各 教 科 篇

1 国 語 科	
A 国語科の学習指導について .....	18
B 国語 I (小説) の学習指導案例 .....	20
C 国語 I (古典) の学習指導案例 .....	22
D 国語 I (評論文) の学習指導案例 .....	24

## 2 社 会 科

- A 現代社会, 倫理の学習指導案例……………26
- B 現代社会, 政治経済の学習指導案例……………28
- C 日本史, 世界史の学習指導案例……………30
- D 地理の学習指導案例……………32

## 3 数 学 科

- A 数学科の学習指導について……………34
- B 基礎解析の学習指導案例……………36
- C 数学Ⅰの学習指導案例……………38
- D 代数幾何の学習指導案例……………40

## 4 理 科

- A 生徒実験のやり方……………42
- B 理科学習指導案の記載に用いられる表現の例……………43
- C 物理の学習指導案例……………44
- D 化学の学習指導案例……………46
- E 生物の学習指導案例……………48

## 5 保健体育科

- A 保健体育科の学習指導について……………50
- B 保健の学習指導案例……………51
- C 体育の学習指導案例……………52

## 6 英 語 科

- A 英語Ⅰの学習指導案例……………54
- B 英語Ⅱの学習指導案例……………58

## 7 家 庭 科

- A 家庭科の学習指導について……………60
- B 家庭一般の学習指導案例(その1)……………61
- C 家庭一般の学習指導案例(その2)……………62

## 8 芸 術 科

- 美術の学習指導案例……………64

# 一 般 篇

## 1 実 習 生 学 習 指 導

教育実習の実質的な中心は、教科の指導にある。「教育実習」は実習生にとっては「実習」であるが、教えられる生徒にとっては「実習」ではなく「教育」そのものを受けているのであるから、実習生として真剣に、最善の努力を注ぐよう心掛ける必要がある。

### 授業担当の手順

- ① まず、指導する授業の「主題（指導項目、指導内容、題材、教材、範囲—教科により呼称が異なるが、以下列挙を略する）」と、その学級、日時が割当てられる。<sup>註</sup>
- ② 割当てられた「主題」に対して、何を、どのように教えるかの計画をねる。
- ③ 立案した指導計画を「学習指導案」としてまとめる。
- ④ この学習指導案にそって授業を展開し、内容の是非を評価する。
- ⑤ 授業ののち、反省（整理）会が開かれ、その討議が次の授業への参考になる。

実習生による授業は、実習生のために特別に設けられたものでなく、学校の授業計画の流れの中で割当てられるものであるから、指導計画の立案の際は、その学校の単元（大項目、章）授業（構成）計画の中での「主題と主項目」、日時、時限数、学級などは、指導教官の指示に従うこと。

註 教科によっては、実習期間中に実習生が担当する範囲（領域）を指示され、その範囲の論理構造と教育的配慮を踏まえて、領域全体の指導計画を立案し、その中から各時間の「主題」を実習生自身が決定することも要求される。

## 2 指 導 計 画 の 立 案

計画を立案する場合、つぎの3点、すなわち

- ① 教えるべきことは何々か、という「教材内容の研究」
  - ② どのように学ばせたらよいか、という「指導法の研究」
  - ③ 指導の結果をどのようにして把握するかという「授業評価の研究」
- に分けて考えておく必要がある。

①の教材研究は、どちらかといえば指導者側からの目標選択であるのに対して、②では、生徒の実態を考慮した上で、いつ、どこで、どのように学習させるのが最適となるか、を考えるものである。

### A 教材研究の仕方

- ① 教授システムにおける教科書の位置づけ  
教科書は教材の一つなのであって、教科書が教科課程であるかのごとく位置づけられてはならない。教科書を教えるのではなく、教科書で教えるのである。
- ② 教科目標の把握

まず、「高等学校学習指導要領」の各教科の一般目標に目を通し、教科指導における全体的なねらいを充分に把握しておく。

③ 単元（大項目、章—教科により呼称が異なるが、以下列挙を略する）における主題の位置づけ

学校には、学年別・教科別に学習指導の年間計画が立てられている。はじめに、各自が担当する部分の位置をこの年間計画で確認し、次に、その部分が含まれる単元の指導計画を考える。そうすることによって、主題前後の教材に目が及び、学習の流れや主題部における教材の果たす役割や実習校での既習事項もわかる。その結果、例えば、どこを省き、どこは確認して後の学習にどう繋ぐか、ということまで知ることができる。

④ 主題目標の確立

「主題」に関する教科書の該当記述部分を精読し、単元の目標と、主題の授業内容の二面から、主題の目標が何であるかを把握すること。註

⑤ 教材の選択と配列

次に、目標達成のために必要な「主要項目」を選びだし、筋の通った、理解し易い配列に組立てる。

⑥ 立案のための資料

実習校での使用教科書、その掲載文の原典、他社の教科書、教科書教師用指導書（これには年間指導計画、各単元・授業での指導のねらい・指導上の留意点、問題解答、実験指導などが詳しく解説される）、教科の参考書・問題集・専門図書など。

⑦ 発問（教師から生徒への問題の問いかけ）の準備と工夫

発問はその授業の成否を決める重要な柱であるから、授業目標、生徒の到達度をふまえてより適切な発問を工夫する。重要な発問は、言語で話すばかりでなく、黒板、OHPなどを用いて明確にする。また、ヒント、作業指示、反応予測などで体系づけること。

⑧ 定着させたい技能、記憶させる事項の抽出

分ることと出来ることとは異なる。理解させた上に出来るように訓練しなければならない事項を明確にし、その訓練方法を質と量の両面から検討しておくこと。また、提示した学習内容から特に記憶しなければならない事項を明示できるように、場合によっては記憶の定着をはかるための練習方法を含めて検討すること。

⑨ 生徒のレディネス的状況の把握

どの教科でも必要であるが、とくに、積み重さね・反覆を不可欠とするため演習や訓練が重要な教科においては、割当てられた学級の生徒の集団としての、できれば各個人の、現在のレディネス状態を把握し、それを踏まえることが大切である。

各授業時間において既習事項として扱う事項が何かを明確にすること。これを確認する方法も検討すること。

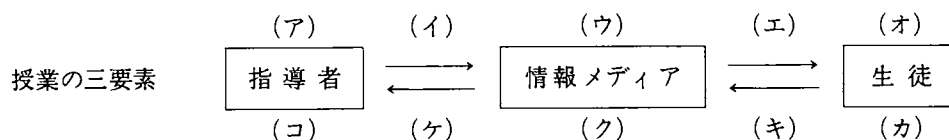
⑩ 施設、教具の設置、整備状態の点検

教室内、教室外の施設、教具の有無を調べ、どれだけ利用できるかを十分に承知しておくこと。

註 国語科においては、割当てられた「主題」は、「小説」、「評論」といった単元題とはば一致するものでしかない。「小説」という大きな主題の中に『伊豆の踊子』といった「教材」があるわけである。したがって、『伊豆の踊子』という作品を充分に研究し、その教材を通して「何を」教えるかを把みとらなければならない。そして教えるべきことを精選するのである。

## B 指導法の研究

授業中に用いられる言語、板書、OHP、L.L., VTRなどを「情報メディア」と呼ぶことができる。それは次のように図示することができる。



上の図式中の(ア)～(コ)は、それぞれ次のような意味をもっている。

- (ア) 主題から目標をふまえ、これを支える主要項目を洗いだし、流れにそった教材の配列をはかる。
- (イ) 教材を生徒に伝えるためには、ここでは、何(教材)を、どんな具体目標で、どう順序だててくりだしていくかということの具体化をはかる。
- (ウ) その教材を伝達させ、学習させるのに最も適したメディアは何かをはかる。
- (エ) よくわかり、興味をひき、自発的な学習をさせる。そのため、学習の形態(個別、グループ化、一斉)と、学びとり方の二面で、学習指導の具体化をはかる。
- (オ) 学習は生徒側からみれば、情報の受容であり、知覚、弁別をへて記憶として捉え、さらに、知識や概念の形として整理される。

## C 授業理解度の研究

教えたことを生徒が理解したかどうか、をどのようにして知ることができるか。

- (カ) 情報が確実に受容されると、指導目標に対する生徒の側の働きかけ、つまり、記憶の再生、思考、判断による問題解決への姿勢、あるいは、技術や態度に変容する準備が整えられる。また、種々の疑問を生ずる場合もある。
- (キ) 教えたことを生徒がどれだけ理解したかを知るために、生徒に何らかの表現・行動を起こさせることが必要であり、評価のためにどんな行動をとるか、その引き出し方を具体化する。例えば、個別的またはクラス全体を対象とした発問、質疑応答、机間巡視、演習・実技など。
- (ク) 目標である表現や行動を、どんな評価の方法で捉えるかを具体化する。例えば、挙手による人数調査、机間巡視中一部から全体値の推測、アンサーチェッカーの使用など。
- (ケ) 生徒の反応、態度などを素速く読みとり、現在進行中の授業の是非を判断する。
- (コ) (ケ)で得られた評価の結果は、現在の授業修正としてフィードバックするか、あるいは、次の授業の改善に生かされることになる。

## 3 授業における教材の精選、配列および時間配当

つぎに、1時間の授業として具体的にまとめることに移る。

### A 授業における教材の精選とその配列

教材の精選とは、まず、主題の「ねらい」を充分吟味し、この「ねらい」あるいは「目標」に沿った、質的に重味の異なる種々の材料を多く集め、次に、これらの材料を、1時間の授業に適当な量にまで搾ることをいう。

精選された教材とは、教材研究を徹底的にし、その中から、与えられた時間配当の中で、教えるべき事項として選びだされた教材（項目）を指す。この場合、与えられた時間配当とは、1時限として50分ではなく、後述Bに示す時間を差し引いた残り時間——必ずしも一定ではないが、およそ30分位——が学習事項に当てられる。

主題決定から教材の精選までの要領を項目的に示すと次のようになる。

① 主題決定と資料の準備

- (ア) 実習校で使用している教科書。できれば他社の教科書も揃えておく。
- (イ) 語学教育においては、原典に直接当たる。
- (ウ) 使用している教科書会社の教授資料。生徒用の参考書、問題集。(指導教官から指示されたものならなおよい。)
- (エ) 教科や教育学の専門図書。その他、新聞・雑誌・テレビ・広報刊行物など。註<sup>1</sup>

② 主題の位置づけと主題のねらい（目標）

- (ア) まず、単元がどのような主題で構成されているか、本主題はこれまでの学習をどう受け継ぎ、これからの学習にどう結び付くかなど、単元の流れの中での主題の位置づけを、使用教科書を軸にして明らかにする。
- (イ) 次に、主題学習全体を通じての柱となる「ねらい（目標）」を、2～3項目に自分で纏めてみる。註<sup>2</sup>

③ 教科書、図書教材の性格と限界

- (ア) 教科書は学習指導の上でのオールマイティではない。とくに、教科書の教材内容は、ある一つの水準を示しているに過ぎず、すべての生徒の要求する学習水準を満足させるものでない。生徒の実態を正確に把握して、上記②に沿うように、教科書を使用する。
- (イ) 同様に、問題集・資料集・原典なども、その学習水準と、生徒の要求水準との間に差があることを承知して、取り扱う。

④ 問題集の活用 註<sup>3</sup>

授業以前の教材研究の段階で、生徒用問題集を活用することは、まず実習生自身の知識や理解度を確かめることができるとともに、授業中での利用や、纏め、復習などに活用できる利点をもっている。この場合に用いる問題集は、教科書に準拠した基本的なものがよい。

- (ア) まず自分で解いて、あとで解答例と比較し、良い解答の研究をする。
- (イ) 知らない所、解けない箇所はよく調べて、必ず解いておく。
- (ウ) どこでつまずき、どこで誤ったか、その原因を明らかにしておく。
- (エ) 授業で用いるか、宿題にするかなど、用い方も研究しておく。

⑤ 最終的な精選と配列

ここでは、生徒の実態を踏まえ、限られた時間配当（30分位）のもとで、主題のねらい（目標）を生かし、生徒の学習活動を進めるために必要な最少限の項目を配列することを目的とする。ここで重要な仕事は、項目と項目との流れをどう関連させるか、その具体化をはかることである。

註1 社会科の現代社会、政治経済、地理においては、新聞、雑誌、テレビ、広報刊行物による情報が重要な教授資料となることがある。また、最新の情勢が最良の教材内容である。したがって、日頃、マス＝メディアのニュースに注意し、情報を教材として整理しておくことよい。なお、ニュースの鮮烈さに圧倒されてはならない。

註2 学習目標の記述の中で用いられる動詞は、外部から観察できる生徒の行動あるいは行動の所産を示すものでなければならない。例えば、「理解する」という語は、第三者にとり生徒が本当に理解しているかどうかを示していない。「識別できる」というような言葉を用いて目標を明記すると、「理解」という抽象的な内容を具体化することができる。「識別できる」という行動は、外部から観察したり判別できるし、また、観察者が何人いたとしても、誰も同じように評価できる。

以下に、行動を示す動詞で、学習目標の中で記述すべきでないものの例を(a)、逆に、適当な動詞を(b)に示す。もちろん(b)の類似語はよい。

(a) 知る 慣れる 鑑賞する 学ぶ 伸ばす 応用する

(b) 識別する 作成する 名前を挙げる 説明する 順序づける

註3 国語科では、教科書の教材の末尾に設問がある。これが多くの場合、作品のテーマに迫る糸口となる。設問をいかに取り扱うかが大きな課題である。

## B 授業における時間配当

授業では、割当てられた学習事項を、計画された時間配当の中で済ませることが大切である。とくに、実習生の授業では、これが守られないと、後の授業計画も立てられず、同僚に迷惑をかけることになり、授業の質的低下を生ずる原因となる。そこで、授業計画に取り掛かるとき、必ず必要とされる時間配当はどの箇所か、それは何分位か、また、教材精選に際してどんな順序を踏まえ、どんな観点から洗い出すか、の留意点を押さえておく必要がある。

指導計画を十分練り、これを授業に耐える学習指導案に纏めるわけであるが、時間配当のとき、ぜひ考えておくべきことがいくつかある。

① 導入では、5～10分が必要である。

(ア) 教室移動などのため、全員がそろうまで1～2分遅れることがある。

(イ) 出欠点呼に要する時間は、理由確認を含めて1～2分位必要となる。

(ウ) 前時の復習、本時の予告、展開へのつながりなどで3～6分位を要する。

② まとめ(終結)でも、5分位はみつもっておく。

本時の復習、重要事項の確認、次の授業の予告……など。

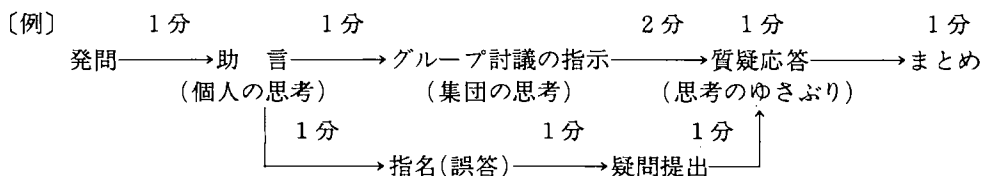
③ 板書やノート指導のために、多めに時間をみつもっておく。

板書では、整理して書く、見させる、わからせながらノートさせる、という具合に、授業の中でも極めてスローペースの徹底した指導が行なわれるところである。したがって、指導者が板書に要する時間の少なくとも2倍位の時配を考えておくといよい。

④ 説明指導における時間配当

説明指導には、説明、補足、指示、音読、助言、質疑応答などいろいろあるが、例として、発問とそれに伴う内容について、これに要する時間を考えてみる。

発問の場合、まず、発問の意図や内容などが十分に伝えられることが大切で、時配の面では、この発問による刺激が生徒によく徹底し、問いに対する解決までの適当な時間をその場の状況を予測してみつもっておく必要がある。

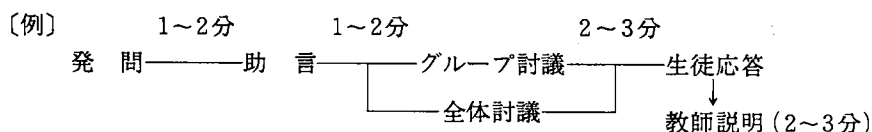


このように考えさせるための発問では、1回あたり5～6分前後かかるとみてよい。



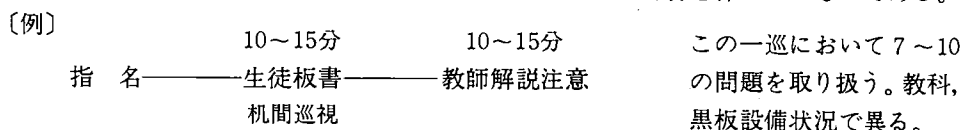
### ⑤ 質疑応答のための時間配当

質疑応答で取り上げる事項は、必要に応じ、事前に準備しておき、いつ、どのように扱うかの計画を立てておく。場当りの問題提起はつつしむ。質疑応答は、本時の学習内容の重要項目についての理解を一層深めるためのものであるから、全員が思考できる余裕をもたせることが必要である。



### ⑥ 演習を主とした授業の時間配当

問題演習は、復習、応用の何れにしても、学習のねらいを達成し、習熟度を増大するための重要な方法である。その典型は、生徒を黒板前に出して解答を作らせるものである。<sup>註1</sup>



### ⑦ 実技指導のための時間配当

集団が移動したり、隊形をつくるときには時間を要することも計算する。ある技術を何回、または何分程やったら効果があるか、という必要から時間配当が考えらる。時間が余り気味だから簡単に回数を増やす態はよくない。<sup>註2</sup>

### ⑧ 実習指導のための時間配当

身支度、用具の準備・点検、材料の分配、後始末なども考慮する。<sup>註2</sup>

### ⑨ 実験およびモデル提示の時間配当 <sup>註2</sup>

### ⑩ 時間が余った場合を予想しての配慮

この場合に考えられる具体的対策として、下記のようなものがあげられる。

- (ア) 本時のまとめを、項目ごとにややくわしく説明する。
- (イ) 本時の学習での留意事項を再確認させる。
- (ウ) 授業内容の理解を深めるような補足事項をつけ加える。
- (エ) 発問形式を活用し、生徒の答えによって復習をさせる。
- (オ) 予め用意してある基本問題を演習させ、学習内容の理解度を自己評価させる。

以上の方法が、余り時間の多少によって、適宜に用いることができるよう、前もってよく考え、上記の留意事項、補足事項、発問の内容、基本問題、などを準備しておくことが必要である。

<sup>註1</sup> 生徒を黒板前に出して解答をつくらせている間の教師の活動は、第一に、次の説明のためにその答案内容を把握し、とくに、話しや表現の不適切な個所、不要なまわり道や重複、大部分の生徒と異なる方法や工夫、などのチェックである。第二に、机間巡視により、各ノートに表わされた代表的な答案を知ることでもある。巡視中に小さな生徒の質問をうけ、その内容にはっとするものがあることもある。そのほか、学習状態の個人観察（予習復習ができているか、作業のすすみぐあいがどうか）、個人指導、授業の流れに取り入れる程でない質問の処理にも当てられる。解答がとくに遅れた生徒には、ヒントを与えとか、自席に戻すとか、適宜処理し、予想外の答案や意図がよくわからないものは、生徒に説明させることもある。

<sup>註2</sup> 各教科篇関連教科の記述を見る。

## 4 学習指導案の書き方

前記3 A, Bから、必要最少限度の教材が残り、最終的な精選とその配列ができたら、次の仕事として、この指導計画を「学習指導案(教授案, 教案, 日案)」としてまとめることになる。

### A 学習指導案が備えねばならない要件

学習指導案には、教える者の授業観が投影される。だから画一的な原型のようなものはない。しかし、授業に取り組む必要上から作成されるものであるから、常に備えていなければならない要件がいくつかある。それは、普通、次のように考えられている。

① 指導目標が明らかになっていること。

まず、単元(章, 節, 大項目)の中での位置づけを踏まえた上で、本時の主題(テーマ)を設定する。次に主題(目標)を支えているいくつかの副目標(サブテーマ, 副項目, 下位目標)を洗い出し、箇条書にメモしておく。

② 教材研究の成果を盛り込むこと。

流れに沿った教材の配列になるようにする。そのためには、3の「授業における教材の精選, 配列および時間配当」を参考にし、どんな目標で、どんな順序で教材を繰り出すかを明らかにしておく。

③ 適切な学習過程と形態が明示されること。

ここでは2 Bの「指導法の研究」を参考にし、学習活動の形態と流れが学習指導案の中に具体化した形で書き込まれていることが望ましい。

④ 学習者の状態が具体的に述べられていること。

⑤ 評価の対象, 目的, 方法が具体的に盛り込まれること。

⑥ 教具, 教材の準備が明示されること。

### B 学習指導案の形式例

学習指導案には定まった形式はない。これは教科の性格による違いとか、指導する内容や形態(講義か実験か、個別かグループか)などによって、それぞれに適した項目や様式のものとなる。具体的には各教科篇の記述を参考にしてほしい。

ここでは、実習生が、指導の前日までに、指導教官に提出する学習指導案の記載事項を重点的に示す。

#### 〇〇科「〇〇〇〇」学習指導案

指導教官 氏 名  
教育実習生 氏 名

日時 昭和〇年〇月〇日〇曜 第〇時限  
学級 〇年〇組 〇〇名(男〇名, 女〇名)  
教科書 〇〇〇〇編, 〇〇〇〇(〇〇〇社発行) 〇～〇ページ

I 単元(題材)名

ここには、実習校の年間指導計画や教科書などに基づいて書く。

## II 単元（題材）設定の理由

ここには、この単元を設けた趣旨を、簡潔に書く。教師用指導書などを参考にして研究するとよい。指導教官の指示で、書かない場合もある。

## III 指導目標

ここには、単元の指導目標を簡条書きに列記する。例えば、「……を理解させる」、「……の技術を体得させる」、「……の態度を養う」のように書く。

## IV 時間配当

ここには、指導内容の小単元または中項目程度に時間配当を書き、本時が何時間目であるかがわかるように書く。

1	○○○○○	3 時間
2	○○○○○○○○○	2 (本時) ( $\frac{1}{2}$ 時)
3	○○○○○	2
4	○○○○○○○	3
5	○○○○○	6
6	○○○○○○○○○	4
計		20

ここには、本時が、全体の何時間目であるかがわかるように書く。

## V 本時の指導目標

ここには、「III指導目標」のうち、本時に到達させる目標をさらに具体的に列記する。

## VI 本時の準備

ここには、本時、特に教師が準備すべきものを書くが、生徒にも準備させるものがあれば、「1 教師の準備」、「2 生徒の準備」と区別して列記する。

## VII 本時の指導過程

段階	指導内容	時間	学習活動	指導上の留意点等
導入	○あいさつ ○出欠席 1 前時の復習 2 本時の目的指示	分		導入は、学習の動機づけでたいせつである。しかし、簡潔に要点だけ指導するようにする。

展	この欄には、指導の流れに従って、指導内容の項目を列記していく。	5分	この欄には、生徒の学習活動を書く。例えば、「…を考える」「…を観察する」「…を実験する」というように、具体的な行動で書く。	この欄には、指導上特に留意すべき点や教材・教具、その他注意すべきことなどを書いておく。このほか「板書事項」などは、余白も少ないので、別紙に書いておくとよい。
		8分		
開				
整 理	1 本時のまとめ 2 次時の予告 3 宿題	分		

註 I からⅣまでは、単元（題材）指導案の最初の部分と同じで、本時の位置づけがわかるようにしたものである。

## 5 指導上の留意点

実習生が実際の授業に臨んで、どんな点に留意しなければならないかを、授業前、授業中、授業後の三つに分けて列記してみる。

### A 授業前の留意点

#### ① 教室環境の整備

- (ア) 教室内の採光、換気など、保健上での考慮がはらわれているか。
- (イ) 机、椅子など正しく整備、配置されているか。黒板は美しく拭かれているか、また、教卓上に不必要なものが置かれていないか点検しておく。
- (ウ) 教科によっては、危険防止の上から場所の安全を確認する。

#### ② 授業に使う教具、補助教材の点検

- (ア) 名簿（名列表）生徒名が正しく読めるか。
- (イ) チョーク、その色と本数、指示棒
- (ウ) 指導案に記載してある準備教具、補助教材の再点検。もちろん、授業前にあらかじめ設置しておく必要がある場合がある。

## B 授業時での留意点

### ① 導入段階での留意点

- (ア) 実習校における授業開始、終了時での挨拶はどのようなになっているかを確認する。
- (イ) 名列点呼のさい「君」「さん」など敬称をどうするかを確認する。
- (ウ) まず、落ちついた学習の姿勢をとらせるための生徒管理の技術の計画をたてる。
- (エ) グループがどうなっているか、または、どうするか。
- (オ) 体育科では、見学者をどう取り扱うか。

### ② 授業の進め方

- (ア) 指導計画にそって、時間ちょうどに終るよう努力する。
- (イ) 時間が余った場合と足りない場合を、前もって考えておきその対策を計画しておくこと。  
足りない時 例、指導案の中のどこをカットするかを授業前に考えておく。  
余った場合 例、時間に応じた発問内容、問題演習をあらかじめ計画しておく。
- (ウ) 生徒の理解を、発問、質疑応答などにより、確めながら、大多数の生徒のペースにあわせて進めること。
- (エ) 板書に要する時間、生徒がノートに写す時間、発問を考えさせる時間など、あらかじめ予定に入れた計画で授業を進めること。
- (オ) 講義、問答、グループ討議、示範実験などを折り混ぜて、退屈しない効果的な授業に努めること。実技指導の授業の場合は、興味づけ、リードアップゲームなどを工夫する。
- (カ) 以前学習したことも、じゅうぶん復習、確認しながら学習を進めること。
- (キ) いま、学ばせている内容が、つねに後の学習内容につながるような指導に努めること。
- (ク) 話の強弱をつけ、間をうまくとること。実習生の場合、生徒からの質問で予定外の準備していない横道に入らないよう留意すること。

### ③ 説明の仕方

- (ア) 生徒の実態（例、他教科科目の既習事項）をよく確めて、それに応じた有効な説明を工夫する。
- (イ) 高校生に適した、なるべくやさしい用語を用い、厳密すぎて抽象的にならないようにする。とくに、自分特有の用語、記号などを用いないこと。
- (ウ) 重要なことは、板書、復唱、言いかえ等で十分定着させるようにする。
- (エ) 身近な話、歴史的な話、実社会での応用、めずらしい話などをとりまぜて、具体的に理解しやすく、興味のもてるものにすること。
- (オ) 板書によるグラフや図を説明するときは、板書の流れは②(エ)をふまえ、いまどこ（例、たて軸や、よこ軸）の何（例、距離か時間か）を書いているかを十分に説明する。
- (カ) 実技、実習、実験指導の授業においては、説明、示範の隊形、位置、方向などを考慮する。

### ④ 黒板の使い方

板書では、見せる、写さす、活用するの三点から黒板を用いる上での指導上の留意点を挙げてみよう。

#### (ア) 見せる、写させる板書

- (1) 光る部分（両側）と、陰になる部分（下側）は使わない。
- (2) 板書するとき、板書事項を説明するとき、自分自身が陰にならないように留意す

る。

- (3) 生徒がノートに写すべき内容と、そうでない内容を区別しておく。
- (4) 色チョーク（白と黄は見やすい）を使いわけ、効果的な板書とする。
- (5) 字は正確で濃く、うしろからでも見える大きさを保ち、みだれのないように留意する。

#### （イ）板書の内容と活用

- (1) 板書事項は精選したものを順序よく、きれいに正確に書く。
- (2) 板書事項は残すものと、消すものを区別して、その板書の位置を定めておく。
- (3) 消去の時期を選ぶこと。一度提示したものを消す前に復習させ、消してから質問するといったやり方は、生徒の理解度、授業評価に有効である。
- (4) 残す板書は、授業過程の中での復習、終結の段階での学習の整理に活用できる。

#### ⑤ 生徒への発問（助言）

- (1) まず、具体的で、答えやすい発問をすること。
- (2) 発問では、まず、生徒を指名する前に、全員に考えさせる時間をとること。
- (3) このとき、指名し答えさせる生徒の選び方に注意すること。
- (4) 発問内容と、それに対して予想される答え、あるいは反応のないときなど前もって十分考えておき、次の対応も計画しておく。
- (5) 発問のタイミング：生徒に考えさせたり、学習内容の理解を確めるためや、学習の退屈さに刺激を与え、生徒に注意させ、管理するために、タイミングのよい発問をすることは有効である。
- (6) 悪い見本として生徒を実例に使った場合は、その取り扱いに細心の注意を要する。
- (7) 矯正のさいの用語を工夫する。

#### ⑥ 生徒からの質問、発言

- (1) 指導内容からみて、生徒から予想される質問は前もって十分検討しておく。
- (2) 生徒からの発言、質問がズレていても、これを有効に生かす態度を訓練すること。
- (3) 実習生の場合、予定外の質問や、個人的な質問、授業の流れにあわない質問、あるいは質問をうけてもわからない場合、思いつきの返答はしないで、次回、または、授業後個人的に答えるようにする。

#### ⑦ 終結段階での留意点

- (1) 本時で学習した内容のポイントを押さえ、あるいは整理をする（口述か発問か）。
- (2) 次に、学習内容の復習、あるいは課題を具体的な形で提示する。
- (3) 実験、実習、実技を終え、集団的に陥り易い欠点を観察したならば指摘する。
- (4) 怪我などしていないか確認する。
- (5) 終了時の挨拶をきちんとする。実験、実習、実技のときの後始末を考えておく。

#### ⑧ 補助教材・教具・教育機器の利用、及び、示範実験・観察について

- (1) 必ず前もって使ってみて、よく練習しておき、所要時間を知っておくこと。
- (2) 機器の特性と生徒への影響、効果をよく考え適切に用いる。  
例えば、板書に時間のかかりそうな図や、書きにくい図は前もって、スライド、OHP、図表などにしておくと、保存もでき、次の授業にも活用できる。  
また、三次元的なものは、できるだけ立体モデルを用い、教室でできそうもない動きのあるものは、VTRや映画を用いることができる。
- (3) 図・モデルを用いて指導する時は、まず、何を説明するための図・モデルなのか

を明らかにする。この場合、図・モデルは実物そのものでなく、抽象的で、限界があることをわきまえ、具体的にわかりやすく説明する工夫が大切である。

- (4) モデル、器具を観察させ説明するときに留意しなければならないことは次の2点、まず、どこからでも見える位置、とくに適当な高さであること。次に遠くの生徒でも、モデル、器具の細部がじゅうぶん観察できるかについての配慮を忘れないこと。

## C 授業後の留意点

### ① 教室から退出するまで

- (ア) 生徒からの質問があるかも知れないから、暫時待ち、授業終了の挨拶後慌てて退出しない。授業中でなく授業直後に質問する生徒はかなり多いものである。質問には、次の授業に邪魔にならない時間のあいだで答え、説明が不十分であれば、後程場所と時刻を指定して応答の延長を約束する。
- (イ) 授業時間中に生徒に伝えることができなかった重要事項や課題を、黒板の一隅に書くなどの処置をする。
- (ウ) 実習生の場合、授業後の教卓、黒板の美化は必ず自分で済ませておくこと。ただし、終了直前まで板書したときは、生徒が写し終わるのを見届けてから消す。
- (エ) 実験、実習、実技のあと始末をする。生徒を手伝わせることもある。

### ② 授業後

自分が担当した授業については責任をもち、生徒からの質問があれば充分に応答し、また必要があれば、指導内容について後の授業担当者に連絡をする。

# 6 教育実習における観察・記録・評価

## A 授業の参観

教育実習における観察とは、生徒の学習活動、ならびに教師の教育活動を目でよく見ることである。この場合の「よく見る」とは、事実を客観的に捉えるということである。

### ① 観察の目的

観察の目的にはいろいろあるが、教育実習における観察の主な目的は次のようである。

- (ア) 生徒の学習活動や生活行動の実態を、よく見て理解すること。
- (イ) 教員の教育活動や勤務について、よく見て理解すること。
- (ウ) これらを通して、教育的な観察能力や指導能力を養うこと。

このほか、学校の施設・設備、教育環境としての地域社会などを、よく見て理解することは必要であるが、短い教育実習ではあれもこれもと目的を多くしないで、重点的にするのが適切である。

### ② 授業参観の留意点

#### (ア) 参観者のマナー・態度

- (1) 授業担当者より早めに教室に入る。
- (2) 教生どうし、または、近くの生徒と話をしない。
- (3) 授業中気づいた点を、できるだけ多くメモしておく。
- (4) 不必要に動き回りをしない。
- (5) 他教科の参観は、事前に承諾を得ておく。

(イ) 授業の内容と構成について

できれば、指導案にそって、授業者の意図を理解した上で参観する。

- (1) 指導の各段階（導入・展開・まとめ）での時間配当の適否
- (2) 教材の配列（論理的構成）の良否
- (3) 教材の質的内容の妥当性

(ウ) 技術面（指導法）について

ここでは、指導上の留意点が、どの程度生かされているかに着眼する。

- (1) 指導者の態度・服装・姿勢・目立つくせ……など
- (2) 言語活動における質と量の適否
- (3) 板書における質と量の適否
- (4) 補助教材・教具の取り扱いの良否

(エ) 生徒について

- (1) 指導者と生徒との関係の様子
- (2) 生徒どうしの関係の様子
- (3) 生徒の自主的な行動の様子

③ 反省（整理）会

(ア) 目的

授業後の反省会は、授業をできるだけ科学的に分析・整理し、次の授業の改善に役立たせるため行う。

(イ) 期日、場所、メンバー

原則として、その日のうちの適当な時間と場所とが指導教官から指示される。参加者は、授業者、参観者、指導教官である。

(ウ) 反省会のもち方、進め方

(1) 司会者の役割

司会者は、授業の留意点が全て洗い出されるように配慮し、予想される問題点を十分に検討しておく。これは、反省会における多角的な発言を引き出し、討議を円滑に進める上で重要である。

(2) 授業担当者の感想と反省

時間配当、教材配列、事前の教材研究、指導技術、態度、生徒の行動の観察の様子、その他の留意点などについて、感想と反省を述べる。

(3) 参観者の感想・意見⇄授業担当者

発言の場合には、良かった点や疑問点をあげる。後者の場合、できれば、「自分だったらこのようにしたい」と、具体的な形でもち出すと討議しやすくなる。

(4) 担当教官の感想・批評・意見

(5) 全体の討議

(6) 担当教官の総評・まとめ

反省会で得られた内容も、実習ノートに記入しておく。

## B 学習指導案に基づく授業過程の分析評価

本時の授業に対して、担当者が立てた学習指導案と、実際に展開された学習活動を対比させて、分析・評価を行い、授業の改善を計る。



# 指導教官に提出する授業分析・評価表の一例

記入者 氏 名		授 業 担当者		年 月 日 限 クラス ( )		主題名	
評 価 の 項 目			評 価 の 要 点		2 1 0 -1 -2 ● ● ● ● ●		評価の要点説明記入欄
教 材 の 構 成			指導のねらいと教材内容の論理構成		● ● ● ● ●		
時 間 配 当			計画面及び実際面での時間配当		● ● ● ● ●		
教材内容の妥当性			分節ごとのまとまりとつながり、また質と量		● ● ● ● ●		
授 業 時 で の 指 導 の 技 術	情 報 の 提 供	発 言 (質と量)	発問、指示、助言、説明などの適切さ、声の大きさなど		● ● ● ● ●		
		板 書 (質と量)	位置、大きさ、読みやすさ、板書内容、説明、ノート指導、タイミング、色わけなど		● ● ● ● ●		
	情 報 の 受 容	補助教具の活用	準備、扱い方は充分で効果的か		● ● ● ● ●		
		質疑応答の反応	生徒とのやりとりは適切か 発言によるゆさぶりは効果的か		● ● ● ● ●		
		作業活動の抽出	実習、演習、実技、グループ討議、板書など		● ● ● ● ●		
		生徒の自主的姿勢	学習意欲、態度、自発性などのムード		● ● ● ● ●		
情報の交流と指導の修正		あらゆる事態に備え、場に適応した指導の修正		● ● ● ● ●			
指導者の姿勢・行動			真面目、公平、親切、姿勢、位置、くせなど		● ● ● ● ●		
(記 事)							

# 各 教 科 篇

## 1 国 語 科

### A 国語科の学習指導について

#### ① 聞くこと、話すことの指導

「聞くこと、話すこと」は、われわれの言語生活の中で60%～70%の割合を占めると言われている。高等学校の国語指導においては、ともすればなおざりになりやすい。しかし、国語教師たる者は、他のどの教科にも増して、教師自身のことば遣いに留意しなければならない。そして、正しい応答のしかた、自由に発想し自由に伝達する訓練を生徒に身につけさせるよう配慮したい。「聞く・話す」学習は、対話と呼ばれ、アリストテレスをまつまでもなく、哲学的思索には欠かせない方法である。その意図は、次の三つにまとめられるであろう。

(ア) 豊かな人間性を育て、人間関係を円滑にする。

(イ) 対話法は思考を深め、創造力を養う。

(ウ) 聞く態度を身につけ、人間尊重の精神を培う。

この「話すこと」は、教室の中では具体的に、発問のしかたと関連する。

国語の教師として、的確な用語の選択、話しかけの抑揚、強弱、身ぶり、表情など全てが「場」の対応として考慮されないことはない。時々意識的に方言を用いなければならないこともある。がしかし、適切な質問がなされるためには、また臨機応変に対応するためには、まず教材の研究が十分なされなければならない。教材の本質・構造を離れず、常に中心にそれを弁えて関連させながら切り込むことが要求される。発問は、明確でなければならない。教室の生徒一人一人が集中して聞くことを徹底させることも大切である。また、二者択一のような質問は思考力を停止する（但し、導入段階ではかまわない）恐れもある。生徒の能力に応じた発問を準備したいものである。

#### ② 読むことの指導

「読むこと」という場合の「読む」は、もちろん読解の意味で、単なる音読みではない。

読解に当って、その指導過程は ①3段階方式（石山脩平・垣内松三）②6段階方式（興水実）など様々な学説がある。またジャンルによって読む指導の形態は変化する。これらの詳しい指導法は、教育実習生自身が学習し、研究しておかなければならない。今ここでは、それぞれどんな分野があり、いかに複雑であるかを示すにとどめる。

#### (ア) ジャンル別に見た指導分野

##### (1) 現代文

ア. 詩      イ. 短歌      ウ. 俳句      エ. 戯曲      オ. 小説      カ. 記録・報道文  
キ. 日記・随筆      ク. 論説文

##### (2) 古文

ア. 物語      イ. 日記・随筆      ウ. 和歌・俳句

##### (3) 漢文

ア. 経      イ. 史      ウ. 伝      エ. 詩文

(イ) 読解の内容から見た指導分野

- (1) 文章の構成・段落指導    (2) 要約指導    (3) 語彙指導    (4) 朗読指導

③ 書くことの指導

「書くこと」の指導は、教育実習期間中、直接その指導に携わることははないが、書く指導は授業中つねになされている。作文という明確な形態をとらないだけである。要旨をノートに書く、要点をノートにメモする。先生の説明を筆記する。板書をノートするなどきわめて書く作業に満ちている。殊さらに、創作的な文章を書くだけにとどまらない。したがって、教師は、板書に際して、その基本的作業と心得てモデルを提示するつもりでいなければならない。

筆順を誤らないことはもちろん、整理された板書が望まれる。説明の際も筆記しやすい整理されたことば遣いは、国語という性格上、特に必要であり留意されなければならない。

④ 文法指導

高等学校では、文法といえば、古典文法を意味している。しかも体系文法を教えることだと考えやすいが、解釈文法があくまでも常道でなければならない。文意を読みとるための語法なのである。

⑤ 辞書利用の指導

高校段階では、辞書の引き方をいちおう身につけている筈であるが、まだまだ定着してはいない。習慣となるまでに指導したい。

辞書を引く場合は、未知の語を機械的に引く場合と、意味を類推予想させて確認のために引く場合とがある。意味を類推することは思考力を伸す上に非常に重要な訓練となる。既知の語でも何度も接し確かめて、はじめて身につくのである。

# B 国語Ⅰ（小説）の学習指導案例

国語科学習指導案		昭和 年 月 日 曜 第 限 組
指導	教官	授業担当者名
単 元 名	単元・教材の配列と時間配当	
小 説	羅 生 門（5時間）	夢 十 夜（4時間）
教 材 名	羅 生 門	
教 材 観	『羅生門』は、芥川の歴史的短篇小説の代表作であり、また『今昔物語集』にその素材をとった寓意小説である。この作品の主題・構成・登場人物の性格・心理等の分析は、小説の読み方、さらには自分とのかかわりあいにおいて、人間性というものの一端に触れさせてくれる。その意味では生徒にとっては恰好の教材であろう。	
教材のねらい	主題を把握させるまでの過程が第一のねらいとなるが、一般的に寓意、比喻小説と言われていることから、素材としての『今昔物語集』を作者がどのように整理し、どのように駆使して自分の意図を表現しようとしているか、それを第二のねらいとしてみたい。	
各 時 の 目 標 お よ び 展 開	1. 小説の筋の展開をつかみ、場面・状況の把握を的確にする。 2. 下人の心理の揺れ動きを、場面の転換に沿って把握する。 3. この作品の主題について考える。 4. 『今昔物語集』（巻29）の読解と『羅生門』との比較。 5. 『羅生門』における歴史小説の方法について考える。	
本時（第4時） の ね ら い	前時までで『羅生門』の主題に到る過程について考えてきたので、本時ではそれらを踏まえて、素材となっている『今昔物語集』（巻29）との比較を試みる。『今昔物語集』の筋を追った読解を中心にし、全体をみた後で大ざっぱに『羅生門』との相違点を検討してみたい。なお、死骸の女に関する『今昔物語集』（巻31）は、本時終了後、生徒への課題としておく。	
学習内容の展開および指導上の留意点		板書の内容
【導入】 ・前時まで見てきた下人の心理の推移と主題の確認 ・本時の授業内容のあらましについて 芥川と『今昔物語集』の関係（文学として発掘）を簡単に説明し、同類の作品を紹介。 【展開】 ・『今昔物語集』の概説 成立年代、編者、ジャンル、構成、文体の特徴などについて説明 ・全文の範読 ・指名読み（1人）……全員に内容を追うことを指示 ・黙読（全体の粗筋を把握させる） ・全体（形式段落として5段落）を順に読解していく。 （第一段落） ・摂津、山城、羅城門、朱雀大路を古語辞典の地図で確認させる。 ・範読しながら進める（口語訳しない）以下の段落も同じ		心の不安定 エゴイズム 『今昔物語集』 『鼻』『芋粥』 ・平安末期 （11C末～12C初） ・未詳 ・説話 ・天竺、震旦、本朝 ・「今ハ昔」 「語伝ヘタルトヤ」
		発問の内容
		・同類の作品
		5分

		指示語の内容 助動詞の意味 ↓		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「其レニ不見エジ」について（指示語、助動詞に注意）</li> <li>・「和ラ」の語感について</li> <li>・男の素生，行動，背景となっている場所時間等を明確にしておく（発問）——（第二段落）</li> <li>・「連子」，「枕上」を辞書で調べさせる。</li> <li>・「若き女ノ」「老タル嫗ノ」格助詞「の」訳し方の説明（辞書で確認）</li> <li>・「カナグリ」の語感について</li> </ul>	盗人 羅城門の上層 夕暮れ時	解 釈	30分	
		「の」格助詞 同 格		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盗人の見た光景（発問）——（第三段落）</li> <li>・「心モ不得ネバ」の意味について（発問）</li> <li>・「モゾ」を辞書で調べさせる——→部分訳（発問）</li> <li>・「和ラ」の語感の確認（第一段落既出）</li> <li>・「己ハ，己ハ」の説明</li> <li>・「手迷ヒヲシテ」 比較→「手迷」の意味「手ヲ摺テ迷ヘバ」 味を考えさせる。</li> <li>・「何ゾノ嫗ノ此ハシ居タルゾ」の直訳と異訳</li> <li>・「云ケレバ」↔「云ケレド」の相違（文法上）</li> <li>・盗人の心理と行動，老婆の言葉と動作の確認（「心モ不得ネバ」，「恐シテ試ム」，「盗人～去ニケリ」）——→</li> </ul>	若キ女 白髪のおたる嫗		
	「もぞ」 「もこそ」	「若シ死人ニテモゾ有ル」の訳		
	「云ケレバ」 「云ケレド」 若キ女（己が主）	「云ケレド」にした場合の前後のニュアンスの相違		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「死タル人ノ～否不為」，格助詞，否定の呼応</li> <li>・羅城門の当時の状態の確認（第五段落）</li> <li>・今昔の末尾の文体についての確認</li> <li>◎全体を通し読み（1人指名） 〔比較——相違点〕</li> <li>・『羅生門』と『今昔物語集』との大きな相違点 （主人公の境遇や性格 死骸の女の設定 老婆の論理・心理描写）——→</li> <li>【終結】</li> <li>・『今昔物語集』（巻29）の粗筋の確認と，『羅生門』との大ざっぱな相違点について 本時のまとめと次時への展開</li> </ul>	え～ず		15分	
	（生徒の意見）	『今昔』での描かれ方との相違点		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『今昔物語集』（巻29）と『羅生門』との比較をとおして，その内容上の相違点に基づいて，逆に芥川の創作意図というものを，さらに『羅生門』における素材としての『今昔物語集』の役割りなどについて，次回は考えてみたい。</li> </ul>				

C 国語 I (古典) の学習指導案例

国語科学習指導案		昭和 年 月 日 曜 第 限 担当クラス 年 組		
指 導 教 官		授業担当者名 学部 専攻 年		
単 元 名	単元・教材の配列と時間配当			
二. 日本人の 美意識	枕草子 一清少納言 枕草子の本質美について 一西下経一			
教 材 名	枕草子の本質美について			
教 材 観	日本人の美意識は一体どのようなものであるか。永遠の課題として多くの研究者が、この問題にとり組んでいるが、解けそうでなかなか解決されない。今私たち、日本人は、自分自身の位置を確認するためにも、この大きなテーマに取り組んで見ることも必要であろう。その端緒ともなれば幸いである。 高校生にとっては、西下氏の論文は難解な面を有しているが時間をかけてゆっくり解読して行きたいものである。			
教材の ねらい	1. 王朝時代の美的感覚の一端を知り、現代人としての情操を涵養する。 2. 古文の読解だけに力を入れるのではなく、古典の価値を認識する。 3. 枕草子が、清少納言の幻想美を求める意識によって書かれたものだとする、西下氏独創の考え方を理解し、創意、発想を豊かにする。			
各時の目標 および展開	1 時限 } 春はあけぼの、清涼殿の丑寅のすみの、うつくしきもの、の読解 2 " } 平安貴族・後宮生活を理解する。 3 " } 4 " } 枕草子の美は「幻想美」とする西下氏の論文を読解する。 5 " } 一、二、三、四章 6 " } 五、六、七章 幻想描写の一つの例、観察の細かな描写、幻想美 7 " } 8 " 幻想美をなぜ清女が求めたか、時代背景と後宮生活の掘り下げ			
本時(第8時) のねらい	「情景描写」の用語理解——客観描写、写生、観想描写と異なる 「幻想美」は、内部創造を経て描かれたものであることを理解する。 「幻想化」は清女にとってなぜ必要だったか			
学習内容の展開および、指導上の留意点		板書の内容	発問の内容	配時
導入 前時の復習		復習を重ねて行く		
「美しいものを期待する		本文に書いてある部	情景描写	三章のテーマは

<p>心で一層美しいものにつ くり上げる」のが、「情景 描写」であることを確認 する。</p>	<p>分を確認する。</p> <p>生徒は中間学力の者 を対象に質問する。</p>	<p>対比 客観描写 写生 観想描写 目をつぶれば浮 び上がる。</p>	<p>何か</p>	<p>7 分</p>
<p>展開</p> <p>五章。幻想描写の一つ例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 指名読み</li> <li>◦ 読解作業</li> <li>◦ 例文の読解（165 段）女房を天人と 見たてる立体的集 団美を理解する。</li> </ul>	<p>書き出しは一二三四 章のまとめとなっ ていることに気付か せる</p>	<p>天人 一立体的集団美</p>	<p>天人とまではい かないが空から 舞い下りたよう な風情に見える と書いてあるが 何をそのように 見たのか。</p>	<p>15分</p>
<p>◦ <u>美しさを期待す る心の説明</u></p>	<p>← 繰り返し出てくる表 現であることに注意 させる。</p>	<p>美しさを期待す する心</p>		
<p>六章。観察の細かな描 写を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 指名読み</li> <li>◦ 記憶によみがえ ったもの</li> <li>◦ <u>なぜに清女は記 憶を大切にした かを理解する</u></li> </ul>	<p>← 後宮の争いにまでふ れる。 「なまみこ物語」紹 介</p>	<p>記憶描写</p>		<p>10分</p>
<p>七章。幻想美</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 指名読み、</li> <li>◦ 範読</li> <li>◦ 幻想化という内部 創造を経て描いた ものであることを 理解する。</li> </ul>	<p>→ <u>なぜ期待したか</u></p>	<p>× 観察 経験 幻想化された ものとしての 写実性である にすぎない</p> <p>内部創造</p>		<p>10分</p>
<p>終結</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ なぜ清女は期待したか</li> <li>◦ なぜ枕草子を書いたか</li> </ul>	<p>まとめとして解説す る。</p>			<p>5 分</p>

# D 国語 I (評論文) の学習指導案例

国語科学習指導案		昭和 年 月 日 曜 第 限 担当クラス 年 組			
指導 教官		授業担当者名		学部	専攻 年
単 元 名		評 論 文			
教 材 名		清岡卓行『手の変幻 ミロのヴィーナス』			
教 材 観		評論文教材として、構成的にきわめて論理的であると共に、内容的にも深い洞察力と美意識を持つ秀れた文章である。また、筆者の対象把握力と自己の生き方とのかかわりをも見事に合致させている。			
教 材 の ね ら い		評論文を読み、興味と関心を喚起させたい。 段落をつかみ、構成を理解させ、評論文の読解の方法を学ばせ、合せて、美しさに対する感受性を豊かに養わせる。			
各時の目標 および展開		第1時は、評論文についての概説と第1章の構成及び内容分析を試みる。 第2時は、第2章第3章の構成及び内容分析をする。 第3時は、演習問題を考えると共に、自らも「美しさ」について作文を書かせる。(扱い方によっては、2時間で終えてもよい)			
本時のねらい(第1時)		1. 評論文とはどんなものかを知る。 2. 第1章の構成を分析し、評論文の基本的な構成について学ぶ。 3. 「失われた両腕」という観点到に注目させ、見えざる部分にこめられた筆者のものの見方を知る。 4. 具体的表現から抽象的表現へ、言い換えや同類語句、対比語句について知る。			
学習内容の展開および指導上の留意点			板書の内容	発問の内容	配時
(導入)			(それぞれを板書) ・具体的説明部分 ・抽象的(主題)説明部分	3.重要語句および接続語にラインを引きながら読むよう指示。	5分
1. 評論文の種類について説明(文芸評論, 社会科学評論, 自然科学評論, 文明評論)					5分
2. 評論の構成について説明(問題提起, 問題検討, 判断結論, 論証方法)					4分
3. 「手の変幻」指名読み(3名)					
(展開)			(生徒の解答を要約し, 文中語句で板書。単にノートに整理さ	1.ライン部分を中心に答えよ。	
1. 形式段落ごとに要旨を考える。 ・冒頭の問題提出(頭括式)(第1形式段落) ・発掘から現在までの歴史的経緯と失われたた両腕に対する筆者の見解。(第2形式段落)					



<p>*板書は文中語句であるから、更に色 チョークなどで次の語を補う。</p> <p>ビーナスの歴史的経緯</p> <p>筆者の見解（両腕をかくした理由）</p> <p>美——自分の美しさのために</p> <p>空間——よりよく国境を渡って行くために</p> <p>時間——よりよく時代を超えて行くために</p> <p>〈美の永遠性のために〉</p> <p>同類語句</p> <p>特殊・部分的な具象放棄 から</p> <p>普通・全体性 への</p> <p>跳躍・肉迫 である</p> <p>・見える部分と見えざる部分の美（第3形式段落）</p> <p>見える部分——顔・胸から腹・背中、高雅・豊満・美の典型・均整の魔〈有限性〉</p> <p>見えざる部分——失なわれた両腕、神秘・生命の可能性・全体性への羽搏〈無限性〉</p> <p>2. 重要語句、難解語句の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あずかり知らぬ・</li> <li>・パロス産の大理石</li> <li>・メロス島（ヴィーナスの歴史的説明）</li> <li>・生ぐさい秘密の場所</li> <li>・特殊・普通</li> <li>・具象・全体性</li> <li>・逆説</li> <li>・心象的表現</li> </ul> <p>（終結）</p> <p>板書した要約をまとめ、構成を把握させる。</p>	<p>せるだけでもよい。ていねいに板書する。）</p> <p>（発問語句を書き出す）</p>	<p>2. 次の言葉を分る限りで答えなさい。</p> <p>（・印は生徒に発問する。但し分らない場合は直ちに説明解説する）</p>	<p>20分</p> <p>15分</p>
<p>（次時への展開）</p> <p>第2章第3章の構成をノートに要約整理してかくように指示。</p>			<p>1分</p>

## 2 社 会 科

### A 現代社会，倫理の学習指導案例

社会科学習指導案		昭和 年 月 日 科目名（倫理） 3 年 組： 曜 第 限			
指導	教官	授 業 担当者	学 部 氏 名	専 攻	年
大 項 目	現代社会と青年の生き方				
中 項 目 と 学 習 内 容	③現代に生きる倫理 (ア) 真理を求めて〔6 時間〕 (1) 考える存在としての人間・考える葦……………1 時間 (2) 学ぶことと考えること，中国古代の場合……………1 時間 (3) 根源への問いかけ・自然への問いと 人間への問い……………1 時間（本時） (4) ソクラテスの問いかけ・汝自身を知れ……………1 時間 (5) 科学的なものの考え方・法則の探究 （ペーコン）・デカルト……………1 時間 (6) 生き方を求めて（実存主義・社会主義）……………1 時間 (イ) よく生きるために〔4 時間〕 (ウ) 民主社会の倫理〔2 時間〕				
本 時 の 目 標	ギリシャ人が，神話的な世界観から抜け出して，自然を探究しはじめ，その方法をやがて人間自身に向けることによって，科学的思想と哲学的思想とを生み出していったことを理解させるとともに，西洋的思想や人間観の原型を理解させる。				
過 程	項 目 の 展 開		留 意 点		時間
導 入	神話的思考 Homēros (B. C. 9 世紀頃) "Ilias" "Odysseia" Hēsiodos (B. C. 7 世紀頃) "Theogonla" ● 現世肯定的な神々 ● 人間的な神々		● 自然現象も人間の活動もすべてを神々が支配していると考えた点では他の古代思想と同じであるが，神々が人間的な喜怒哀楽をし，人間的な生活をする点で，ギリシャの神話の時代を考えさせる。		5 分
展 開	1. 世界の素材 (arkē) を求めて ① Milesian schools 自然哲学 Thalēs (B.C.6世紀前半) "水"		● 小アジアのミレトス地方が何故に自然哲学を生み出したかを考えさせる。 ● タレスの B.C.585 年 5 月 28 日の日		10 分

	<p>Anaximandros(B.C. 6 世紀前半) “to apeiron”  Anaximenes(B.C. 6 世紀) “空気”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 感覚的素材</li> <li>● monism (一元論)</li> <li>● 小アジアのミレトス地方 (イオニア地方) が舞台</li> </ul> <p>② Eresian schoolsの自然哲</p> <p>Xenophanēs (B.C.5世紀初め)  Parmenidēs (B.C.5世紀中頃)  PathosとLogosの峻別  Zēnōn (B.C.5世紀後半) の  パラドックス  &lt;アキレスと亀&gt;  &lt;飛矢動かず&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人間の認識に着目 (理性)</li> <li>● 世界の成り立ちを問題とする。</li> <li>● 南イタリアが舞台</li> </ul> <p>③Pythagorean schoolsの“数”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Cosmos (世界)</li> <li>● 世界の成り立ちを問題とする。</li> <li>● 南イタリアが舞台</li> </ul> <p>④古代atomism</p> <p>{ Leukippos (B.C.5世紀頃)  { Dēmokritus (B.C.4世紀頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 質と量を同時に説明</li> <li>● 素材と秩序(変化)を説明</li> <li>● 古代自然哲学の完成</li> <li>● ギリシャ本土が舞台</li> </ul> <p>2. 人間への問い(アテネ・ギリシャ本土)</p> <p>Sophistの思想(『知恵者』)</p> <p>{ Prōtagoras (481-411.B.C.)  { Gorgias (484/3-375.B.C)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 職業教師</li> <li>● 人間の認識の相対性</li> <li>● 人間・人間社会への注目</li> </ul> <p>「人間は万物の尺度である」</p>	<p>触の予告やアナクシマンドロスの日時計の考案などはオリエント文明との関係なしに考えられないことから注意をさせる。</p> <p>● 小アジアから南イタリアへ思想の舞台が移っているのは何故かを平和と学問についての関係とともに考えさせる。</p> <p>● 素材のみを問題 (対象の問題) とした時代から、どのようにしたら世界を知り得るか (認識主体の問題) という考え方が出てきたことに注意させる。</p> <p>● 数をもって世界を理解しようとした点や、魂の不滅説・etc. を通て、世界をCosmos (秩序) として理解する立場の特色や後世への影響を考えさせる。</p> <p>● 自然の素材の問題とその成り立ちの問題の双方から説明することを古代なりに実験的にではないが完成したことを理解させるとともに、近代の原子論との差異にも注意させる。</p> <p>● 「ソフィスト革命」といわれる自然哲学から人間への思想の対象変化は当時の時代の変化 (民主政治制度の確立) と表裏の関係にあることを理解させる。</p> <p>思想の地理的・歴史的・内的発展を総合的に理解させ、ギリシャ思想の特色と時代的制約を考えさせソクラテスの思想への連関を示唆する。</p>	<p>10分</p> <p>10分</p> <p>10分</p>
終	結	まとめ	5分

## B 現代社会，政治経済の学習指導案例

[illegible]

終	結	<p>実質国民所得の概念</p> <p>単位経済期間（1年）に一国全体の経済活動が生み出した果実の大きさ</p> <p>（定義の例示）ロビンソン＝クルーソーとフライデーが孤島で1年間に、小麦500kg生産し、また、素手で300尾の魚を捕った。</p> <p>正確には、20kgの小麦を種子にし、鋤・鍬などの資本も使った。</p> <p>ゆえに、480kgから農具の使いべりの部分（資本の消耗分）を引いた残りとして魚300尾が、かれらの実質国民所得となる。</p> <p>これを貨幣額で表わすため、小麦1kg150円、魚1尾200円とすれば13万2千円（マイナス若干の資本消耗分）となる。</p>		
		<p>実質国民所得の算出条件</p> <p>(1)同一のものを二重に算定してはならない。</p> <p>パンの生産－使用された小麦＝パン産出高 〔粗産出高〕 〔中間生産物〕</p> <p>(2)資本を不変に維持するのに必要な部分を粗産出高から差引く。</p> <p>年1000台の機械が生産されても、その年80台が消耗したものとすると、機械を国民所得に算入するには920台でなければならない。</p>	<p>●国民経済では、生産物の種類は莫大数で、各価値があるが、それらを総計する。</p>	
		<p>3. 付加価値と国民所得</p> <p>付加価値とは、それぞれの生産段階で生産された総価値から、機械設備などの消耗を補う費用と、原材料などの費用を控除したもの</p>	<p>●生産物の流れからみた国民所得は付加価値とは同額である。</p> <p>●もし時間が不足気味ならば、付加価値と（実質）国民所得との違いの例示を省く。</p>	8分
		<p>4. 国民所得の諸概念</p> <p>A 総産出高＝最終生産物（付加価値合計）＋中間生産物</p> <p>B 国民総生産GNP＝A－中間生産物</p> <p>C 国民純生産NNP＝B－資本消耗</p> <p>D 国民所得＝C－間接税＋補助金</p>	<p>●教科書の説明図</p>	10分
		<p>国民所得とは、一国の国民が生産活動の結果得た所得の大きさ</p> <p>さらに経済循環の各面の規模や構成を示している。</p>	<p>●本時の総括</p> <p>●次時への関連予告</p>	2分

# C 日本史，世界史の学習指導案例

社会科学習指導案		<div>昭和 年 月 日</div> <div>科目名（日本史）</div> <div>年 組： 曜 第 限</div>			
指導	教官	授業 担当者	学部 氏 名	専攻	年
大 項 目	封建社会の確立と文化の動向（第七章を中心として）				
中 項 目 と 学 習 内 容	<div>① 織豊政権時代と文化の動向 [4 時間]</div> <div> <div>(1) 新しい時代</div> <div>(2) ヨーロッパ人の東洋進出と影きょう</div> <div>(3) 信長の統一事業</div> <div>(4) 秀吉の政策</div> <div>(5) 桃山文化</div> </div> <div> <div>..... 1 時間（本時）</div> <div>..... 2 時間</div> <div>..... 1 時間</div> </div>				
本 時 の 目 標	<div>1. 鎖国にいたるまでの約 100 年間の，政治・経済・社会・文化などの各分野における新しい動きの要点を把あくさせる。</div> <div>2. 西欧人の日本接近を世界の動きの中でとらえさせ，日本に与えた影響を理解させる。</div>				
過 程	項 目 の 展 開		留 意 点		時間
導 入	<div>●前期封建社会の在り方の特色をふり返らせ，後期的在り方とその基礎作りの役割りをなすこの時代に関心を寄せさせる。</div> <div>●西欧人が日本史にはじめて登場する時期であることに留意する。</div>				15分
展 開	<div>(1) 新時代（織豊時代）</div> <div> <div>1. 幾年間の時代か</div> <div>●政治的には→(年代のとり方)</div> <div>●その他の面では→(傾向)</div> <div>2. 時代の役割</div> <div>●後期的体制の基礎作り</div> <div>●権威の変化を促す</div> <div>●南方への関心高まる</div> <div>●南蛮文化</div> </div> <div>(2) 西欧人の日本接近と影響</div> <div>1. 15～16世紀の動き</div>		<div>●短期ながらも1時代として考えようとするのか（発問）</div> <div>●政治的年代の確認（年表）</div> <div> <div>●約30年</div> <div>●江戸初期まで</div> <div>美術</div> <div>キリスト教</div> <div>朱印船</div> </div> <div>●試みとして→検地，刀狩り</div> <div>●古代的権威（なに）に代り，（なに）が時代を動かすことになるのか</div> <div>●P 145 地図に注意</div>		35分

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東方への関心</li> <li>● 地理上の発見と東洋進出</li> <li>● 宗教改革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <math>\left\{ \begin{array}{l} \text{いつごろ} \\ \text{何 国} \\ \text{どこを拠点として進出} \end{array} \right.</math></li> <li>● 東シナ海、後期倭寇の時期であること</li> </ul>
	<p>2. 鉄砲伝来と影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 伝来 <ul style="list-style-type: none"> <li>いつ、何国人、どこ</li> </ul> </li> <li>● 日本での生産は→どこ</li> <li>● 鉄砲の役割と影きょう <ul style="list-style-type: none"> <li>近世的統一</li> <li>貿易への関心</li> <li>築城と戦法</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長篠の戦（口絵参照） <ul style="list-style-type: none"> <li>いつ、どこ、だれ、意義</li> </ul> </li> </ul>
	<p>3. 南蛮貿易</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● いつごろから、どこへ</li> <li>● 内容、方法</li> <li>● 大名の対応→なぜ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仲継貿易</li> <li>● キリスト教布教との関連</li> <li>● 地名、大名たちの確認</li> <li>● イギリス、オランダは→いつ</li> </ul>
	<p>4. キリスト教の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 西欧教界の動き</li> <li>● 日本へ、いつ、だれ、どこ</li> <li>● ザヴィエルの行動と目的</li> <li>● ザヴィエル以後の来日宣教師（だれ、なに）</li> <li>● 伝導・普及への努力 <ul style="list-style-type: none"> <li>出版・教育・医療</li> </ul> </li> <li>● 教線拡大の状況と時期</li> <li>● キリシタン大名</li> <li>● 天正遣欧使節</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 要点を簡単に、とくに旧教側</li> <li>● 地図・年表</li> <li>● 京都の情勢に留意</li> <li>● 年表参照</li> <li>● キリシタン版を重視</li> <li>● いつごろ、信徒数、区</li> <li>● だれ、どこ</li> <li>● 目的、いつ、だれ、帰国時の形勢は、</li> </ul>
終	結	<p>「本時の目標」2に関しては、とくにキリスト教普及に伴う諸問題点を指摘展望して別項目で学習することと、目標1については、次時から具体的に学習する予定であることを伝えて、結ぶ。</p>

# D 地理の学習指導案例

社会科学習指導案		昭和 年 月 日 科目名 (地理) 2年 組： 曜 第 限			
指導	教官	授業 担当者	学部 氏名	専攻	年
大 項 目	第四章 第二次産業				
中 項 目 と 学 習 内 容	<p>① エネルギー資源と鉱産資源 [12時間]</p> <p>(ア) 石 炭..... 2 時間</p> <p>(イ) 石油・天然ガス..... 4 時間</p> <p>(ウ) 電 力..... 4 時間</p> <p>(1) 日 本</p> <p>a 水 力..... 1 時間 (本時)</p> <p>b 火力・原子力..... 1 時間</p> <p>(2) ヨーロッパ (3) ソ 連..... 1 時間</p> <p>(4) 米国とカナダ (5) その他..... 1 時間</p> <p>(エ) 鉱産資源..... 2 時間</p> <p>② 近代工業と工業地域 [12時間]</p>				
本 時 の 目 標	<p>1. 日本の水力発電の地理的分布とその立地条件の理解—高海拔地が多く、降水量が多い自然条件と大消費市場に近い人文条件と関係づけて考察する能力。</p> <p>2. 日本の電力需給についての理解——水力の効率的利用、水力発電の季節的変動の理由と実情および電力消費の季節的・時間帯の変動を考察する能力。</p> <p>(水力と火力との比較、日本の電力問題については、次時で取り上げる。)</p>				
過 程	項 目 の 展 開		留 意 点		時間
導 入  展 開	(1) 日 本 a 水 力 電気事業のはじまり 一般化は20世紀から		●19世紀末欧米の若干の話題 ●石炭、石油に較べて新しく、日本は世界の趨勢に最初から追随して発達。		5 分
	1. 水力発電の分布 全国いたるところ。粗密あり。 本洲中央部に集中。		地図帳の分布図 生徒に発問—集中地域名		5 分
	2. 日本の水力発電の特色 ① 豊富 発電力 $\propto$ (有効落差 $\times$ 流下水量)				7 分



	<p>落差—狭い島国で山勝ちの地形 比較的短距離の地域内で落差が大 流下水量—降水量に規定 日本の平均年降水量 1,740mm 森林が山地を覆い、南北平均して 降水量の1/3が蒸発し、流量の増 減急変を緩和</p> <p>② 利用し易い 燃料として経済的輸送距離が最 短</p> <p>京浜、中京、阪神地域の各消費 市場から 300 kmの範囲内に本州中 央部電源地帯がある。</p> <p>③ 年間を通じての変動 河川流量の季節的变化 豊水期 渇水期 表日本型 年による偏差 裏日本型 概して流量が多く、 変動が少い。</p> <p>水力電気を開発・利用すれば、 その季節的補充のため、必ず火力 発電の設置・運転が必要。</p> <p>④ 水力開発が行き詰っている。 包蔵水力 開発水力 1979年の開発率は43.7% 既設の発電施設をより効率化 するため再開発、例えば水路式を ダム式に 貯水池式、揚水式の増加</p>	<p>●世界の平均の倍以上</p> <p>●電気は発生させるだけで意味が なく、利用されることによって産 業として成立する。 ●現在の業界で、約20万Vの電圧 で2～300kmの直接送電が経済的限 度である。</p> <p>●南北に細長い日本は、地域によ り気候が違い、河川の流量も各地 によって相違する。 ●地域別河川流量特性図を板書し て説明 ●夏の梅雨と秋霖・台風が多雨期。 冬は渇水期だが、裏日本は積雪の ため。そこは春の融雪期が最豊水 期。</p> <p>電力関係統計</p> <p>●未開発の包蔵水力は、技術的な 困難さより、立ち退き交渉・補償 の困難なものがほとんど ●建設費が高いが、資源をより有 効に利用する。</p>	<p>10分</p> <p>10分</p> <p>5分</p>
終	結	<p>日本の水力発電の問題点 火力による補助の必須 増加する電力消費に不足</p> <p>●本時を復習しながら、次時の 「日本の火力」への若干の問題提 起</p>	<p>3分</p>

### 3 数 学 科

#### A 数学科の学習指導について

##### ① 「問題」の種類と役割

数学科においては「問題」の果たす役割は極めて大きい。目的に応じて適切な問題を作成または選択する仕事は、教材研究の中心に位置すると言っても過言ではない。問題の価値は、それをどこに、どんな目的で使用するかによって、生かされも殺されもする。使用目的に合致するように問題を作成する能力は、数学教師の重要な素養の1つである。

##### (ア) レディネス調査問題

新しい分野を学習させるにあたって、既習として扱いたい知識・技能が、本当に獲得されているかを調査するために作られる。指導計画を分析して、既習であるはずの内容を抽出し、問題にする。調査の結果を見て、復習の必要があれば、指導計画の中に盛り込む。その内容が含まれる章の到達度テスト問題が、そのまま使える。必ずしもペーパーテストの形式を取らなくても、授業中にちょっとした作業をさせたり、2～3の問答によっても調べうる。

##### (イ) プレテスト問題

新しく指導しようとしている内容が本当に未知のものであるかどうかを調査する目的で使用する。到達度テストと比較して、指導効果を正確に測定したり、指導計画の中に盛り込むべきもの、略すべきものを知ることができる。どの指導計画にも必要であるとは言えないが、教育研究の立場からは不可欠なものであろう。

##### (ウ) 学習（導入・探究）問題

新しい章や節に入るとき、生徒に提示される。この問題を考えることによって、学習すべき内容が、発見的に抽出され得る問題で、この問題を軸に指導が展開される。この問題は

- (1) 学習すべき内容が無理なく抽出される。
  - (2) 新しく学ぶ用語が使われていない。
  - (3) 難易が適切で煩雑でない。
  - (4) 実験・実測、表の作成、図示、文字に数値を代入してみる。帰納的に結果を予測するなど、具体的な作業によって解決に迫る方法、即ち探究の方法がある。
- などの条件をみたしていなければならないが、さらに以下の条件を満たしているのが望ましい。
- (5) 生徒にとって身近かな興味ある素材が使われている。
  - (6) 既習の方法によって解決されてもよいが、学ぶべき方法を用いた方が、煩鎖でなく自然である。
  - (7) 能力のある生徒にとって、一般化や拡張が可能で深まりを求めることができる反面、スローラーナーにもそれなりの結果が抽出しうる。
  - (8) 章のできるだけ多くの場面に使用できる。
  - (9) 素材を変えても考えうること、変数のとり得る範囲が広いなどの自由性を持つ。

##### (エ) 練習問題

一つの知識技能を永続して定着させるために用いる。他の技能と独立なもの、その目的が生徒にも意識し得るものでありたい。何題の訓練で定着可能か、練習時期は集中した方がよいか分散した方がよいかを検討する。授業に持ち込む、宿題として提出させるなど必

ずさせる努力も忘れてはならない。

(イ) 到達度テスト問題

生徒各人が学習目標を達成したかどうか、換言すれば、教師の指導計画と展開が適切であったかどうかを評価し、指導計画の再検討・再指導が必要かどうかを判断する為に用いられる。学習目標を目標行動にまで分析してあれば、その行動をするように指示する問題と考えてよい。一つの問題が一つの目標行動と対応しているのがよく、いくつかの要素を組み合わせない方がよい。全員満点が最も望ましい状態である。「わかりましたか」といった殆んど無意味な教師の発言のかわりに、小問を準備して、生徒の反応を見て理解したかどうかを判断するとき、この小問も到達度テスト問題であると広く考えてもよい。指導直後または目標によっては期間をおいてテストをする。

(カ) 応用力養成問題

獲得された知識、技能が必要に応じて生かされ、使用する能力をつける目的で作られる。既習の章や今学んだ章におけるいくつかの技能、方法が生徒の能力に応じて組み合わせられたもの。練習問題と同様、数学には不可欠のものである。

(キ) 基準テスト問題

このテストにより、点数はばらつくのが望ましい。各生徒の能力を測定する目的で作られる。学校における期末テストは、現状はこの形のものが多くに思う。(適否は別として)問題は試行によって、標準化されているものが望ましいが、教師の勘にたよっていることが多い。クラスが他校生徒と比較してどんな位置にあるかを調べることを目的とすることもある。

(ク) 目標問題

これらの問題に正しく答えられれば、この章の学習目標が達成されたとしてよいといえる問題、この問題の解答を検討することによって、この章の指導目標を抽出し得るものであること。これらの問題の選択によってこの章の指導目標が、かなり具体的に示されたことにもなる。1つの問題に、より多くの技能が習得されたか否かが判定できるものが望ましく、問題の数は少ない方がよい。

② 問題演習の時間の留意事項

数学科では1時限全体を応用力養成問題の解答・解説に使用されることがある。


〔準備段階〕問題の選択は該当する章に表われる技法が、かたよることなくもれなく入っているように、一題一題に多くの教訓が入っているものをえらぶ。解答や別解を考えておくことは勿論、解法に気付く根拠、用いられる技法の適用範囲なども考えておかねばならない。

〔生徒が板書しているとき〕大きな問題の解答を黒板でかかせると15分位必要とする。この時間における教師の役割は、まず第一に、生徒の答案の把握である。誤、不適切な表現、不要なまわり道や重複、大部分の生徒と異なった方法・工夫等をチェックする。つぎに、答案が書けないで、不必要な時間を取っている生徒にヒントを与えたり、途中でも座席に返らせて、無駄な時間を使わないこと。机間巡視によって家庭学習の状況を個人的に把握し叱咤激励すること。座席に居る生徒が遊んでいないよう、題意把握や別の課題を与えたり、黒板の答案の問題点について考えることを求めたりする。質問に答えたり、疑問点の把握も重要な仕事である。

〔説明の時〕答案の解説にあたっては、あまり生徒が落胆することのないよう言葉使いに気を配る。生徒の答案の一部を正しい答案の一部に組み込むのも一つの方法である。生徒の陥った誤りは、それを教訓として生かす努力をする。予想外の答案や、その意図の不明なものは、生徒の能力と必要とする時間を考慮して、適当と思えば、生徒に説明させてもよい。

## B 基礎解析の学習指導案例

数 学 科 学 習 指 導 案				昭和      年      月      日      曜      限			
				クラス	年      組      名	教      室	
指導		教官	担当者	学部 (学研究科)		専攻	年
章名	指数関数対数関数		節名	指   数   の   拡   張		使用図書	東書教科書
本時の位置	§ 1   指数関数						
	1. 関数 $y=x^n$ (1h) 2. 累乗根            (2h) 3. 指数の拡張   (3h) (本時はその第1時) 2. 指数関数        (2h)						
指導目標	1. 指数関数の定義 ( $y=a^x$ で表される関数) をのべることが出来るようになる。 2. 今後長期間用いる学習問題を記憶する。 3. 当面の学習目標 ( $a^x$ の意味を広げること, $y=a^x$ の性質を知ること) を把握する。 4. 次の命題を発見し, 言えるようになる。 「一定巾の物体を光が通りぬけると一定の比率で光が吸収される。従って強さが $a$ の光がある巾の物体を通過して $ap$ となったとき, $n$ 倍の中を持つ物体を通りぬけると $ap^n$ となる」						
指   導   内   容				授業の流れ		留   意   点	時間
1. $y=2^x$ のグラフの通る点の座標をできるだけ多く上げ, それを与えられたプリント内の座標平面上に取るよう指示				作業指示 作業		2. 机間巡視時の評価項目 (ア) $x$ が自然数のとき (イ) $x$ が0のとき (ウ) $x$ が負の整数のとき	1
2. 机間巡視により生徒のレディネスの状況を把握 (プレテストの代用もする)				机間巡視		き	
3. 評価項目についての人数の確認 (ア) (イ) (ウ)				挙手指示 挙手		(エ) $x$ が分数のとき の $2^x$ の値を知っている	5
4. $(0, 1)$ $(-2, \frac{1}{4})$ なる点を取った理由を聞き, $a^0=1$ $a^{-n}=\frac{1}{a^n}$ なる約束の確認				発問 指名      説明 板書		か。	2
5. $x$ が有理数のときの $2^x$ の値を取った理由の説明を求めている。				発問指名 説明		5. 上記(エ)がyes の生徒を指名, いらない場合はしない。 多分指数法則からの説明となろう。	2
6. 次の3点について説明する。 (ア)指数関数の定義を述べ, 板書する。 (イ) 指数の拡張は指数法則をもとにしないで, 物理的現象に合致させるよう拡張する立場を取る。				説明 説明を聞きノートを取る		6. 板書内容 「 $y=a^x$ なる形の式で表わされる関数を指数関数という」	5

<p>(ウ) <math>a^x</math>の意味は、<math>x</math>が整数の場合を既知とすること。</p> <p>7. 自然界の中から指数関数になっているような例をさがすよう指示する。反応を見ながら、ヒントを与えたり、場合によっては答を示す。</p> <p>8. 少くとも、複利による元利合計、残留放射性物質、細菌の数、薬物の吸収速度、平行光線の強さは例として挙げる。</p> <p>9. 以下の学習問題を提示する。</p>	<p>発問 指名 自由発言 板書 司会  ノートを取る。</p> <p>説明</p>	<p>7 ヒントとしては「一定期間を過ぎれば、一定倍されるもの」を挙げる。</p> <p>司会をしながら生徒から出て来たものを板書し、正しいものを直感的にえらばせながら、正しいもののみをノートする。</p> <p>8. 例が多いという印象を与えるよう努力する。</p> <p>9 プリント小黒板に準備</p>
<p>(学習問題)</p>  <p>ある物体の中を通過している平行光線の強さは、位置に応じてどう変化するかを考えよう。O、Pにおける光の強さを、それぞれ1、2とする。</p> <p>(1) Q、R、Sにおける光の強さはどれだけか。また、その理由をのべよ。</p> <p>(2) M、Nの光の強さはどれだけか。</p> <p>(3) OP、PQ、ONの midpoint、三等分点の光の強さはどれだけか。</p> <p>(4) 以上の考察から、<math>x</math>が分数のとき、<math>2^x</math>はどう定義すべきかを考えよ。</p>		
<p>10. 机間巡視をしながら、生徒の発言の処理、司会</p> <p>11. 光が一定の比率で吸収される理由を把握する為に、次の問題を与える。</p>	<p>自由発言</p> <p>説明</p>	<p>10. (1)の答としては、4、8、16と4、9、16が予想される。</p> <p>11. プリントに準備</p>
<p>小さな球を投げると、確率<math>\frac{1}{3}</math>で通り抜ける網がある。100球投げたとき、何球通り抜けることが期待できるか、同じ網を2枚平行に並べたときは何球通り抜けることが期待されるか。次に網を一定巾の物体、光を粒の流れと考えて、学習問題を考えなせ。</p>		
<p>12 (1)について4、9、16と答えた人は拡散する光の場合と混同していることを出来れば生徒の方から指摘させる。</p> <p>13. 発見命題を板書し説明する。</p> <p>14. これを覚えるよう指示、これをもとにして、次時に(3)(4)の解答をしてもらうことを予告。</p>	<p>問答法</p> <p>板書</p> <p>ノートをとる。</p> <p>次時予告</p>	<p>13. 出来るだけ、生徒のアイディアにより命題を抽出した形になるよう努力する。</p>

# C 数学Ⅰの学習指導案例

数学科学習指導案			昭和 年 月 日 曜 限			
			クラス	年 組 名	教室	
指導	教官	担当者	学部 (学研究科)		専攻	年
章名	方程式と不等式	節名	方程式の解法の検討	使用図書	東書教科書	
本時の位置	§ 1 2次方程式 (8 h)					
	§ 2 連立方程式と高次方程式 (8 h) (本時はこの第6時)					
	§ 3 不等式 (6 h)					
	§ 4 式と証明 (8 h)					
本時の目標	1. 1元方程式の解法を検討し、その根拠となる定理を抽出して記憶する。					
	2. 方程式の変形がどのような同値関係を用いているかを指摘出来るようにする。					
	3. $P \Rightarrow Q$ が真なるとき、 $P$ の解集合が $Q$ の解集合の部分集合となっていることを指摘出来るようにする。					
	4. 無理方程式が解け、解の検討を答案に表わすことが出来るようにする。					
学 習 内 容			学習指導の流れ 留意点			
I 次の方程式を解け (宿題) (1) $\frac{1}{2}x + 1 = 2x - 5$ (2) $(x+3)(x^2+2x) = (x+3)(3x+2)$ (3) $x - 5 = \sqrt{x+1}$ (4) $\begin{cases} x + y = 7 \\ x^2 + y^2 = 25 \end{cases}$ II I(1)~(4)の解答のプリント ( ) 内は解集合 (1) I(1)の正解( $\{4\}$ ) (2) I(2)の正解( $\{-3, -1, 2\}$ ) (3) I(2)の両辺を $x+3$ で割って解いた解答( $\{-1, 2\}$ ) (4) I(3)の $x=3$ が解でないことをたしかめてない解答( $\{3, 8\}$ ) (5) I(4)の正解( $\{(3, 4)(4, 3)\}$ ) (6) I(4)の $x=3, x=4$ を $x^2+y^2=25$ に代入して $y$ を求めた解答( $\{(3, 4), (3-4), (4, 3), (4, -3)\}$ )						

### III 作業により抽出される定理

- (1) (ア) 移項する。  
 (イ) 両辺に……をかける  
 (ウ) 両辺を……でわる  
 (2) (ア)  $A=B \Rightarrow A+C=B+C$   
 (イ)  $A=B \Rightarrow kA=kB \quad k$   
 (ウ)  $A=B \Rightarrow \frac{A}{k}=\frac{B}{k}$   
 (3) (ア)  $ABC=0 \Rightarrow$   
 $A=0$ か $B=0$ か $C=0$   
 (イ)  $AB=0 \Rightarrow A=0$ か $B=0$   
 (ウ)  $AC=BC \Rightarrow A=B$   
 (エ)  $A=B \Rightarrow A^2=B^2$

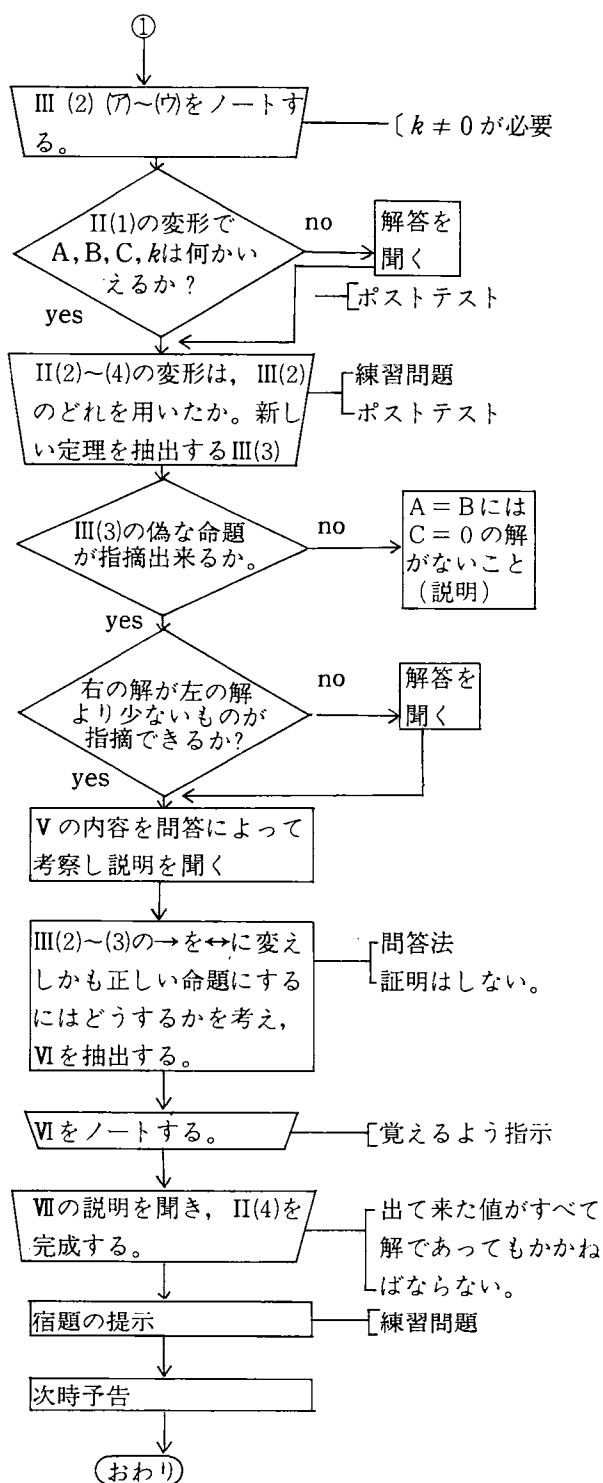
V 方程式の解集合を変えない変形は、上の行から下の行へ移る変形と、下の行から上の行へ移る変形が共に定理に裏付けられたもののみでなければならない。

- VI(1)  $A=B \Leftrightarrow A+C=B+C$   
 (2)  $k \neq 0$  のとき  
 $A=B \Leftrightarrow kA=kB$   
 (3)  $AB=0 \Leftrightarrow A=0$ か $B=0$   
 (4)  $AC=BC \Leftrightarrow A=B$ か $C=0$   
 (5)  $A=B$ か $A=-B$   
 $\Leftrightarrow A^2=B^2$

VII 無理不等式の解法のように、III(3)(エ)を使わざるをえないときは、必ず出て来た解が与式をみたしているかどうかを調べたことを明示しなければならない。

VIII 宿題としてII(1)(2)(4)の各行から下の行へ移ったとき、VIのどの定理を用いたかをチェックすることを求める。

IX 次時は連立方程式の解法の検討である。



# D 代数幾何の学習指導案例

数 学 科 学 習 指 導 案			昭和      年      月      日      曜      限			
			クラス	年      組      名	教      室	
指導	教官	担当者	学部（学研究科）		専攻	年
章名	平面上のベクトル	節    名	ベクトルとその演算	使用図書	東書教科書	
本時の位置	1. ベクトルの意味, 相等      (0.7 h) (本時はその第1時)					
	2. ベクトルの加法・減法      (1.3 h)					
	3. ベクトルの実数倍      (1 h)					
	4. ベクトルの成分      (1 h)					
	5. ベクトルの内積, 演習      (2 h)					
指導目標	1. ベクトルについての用語の定義を述べることができる。					
	2. ベクトルが等しい, ベクトルの和の定義を述べ, 作図したり, 図からえらんたりすることができる。					
	3. ベクトルや, その大きさを記号を用いてかける。					
	4. ベクトルで表した方が都合がよいものとして, 平行移動, 力, 速度を上げうる。					
流れ図	指導目標(下位)		生徒の活動		留意点	
はじめ	有向線分, ベクトルの定義を①②のように述べる ことができる。		1. 有向線分とは①「線分の二つの端点に順序を与えたもの」とあるという定義をききノートする。		①～④を板書し記憶するよう指示する。	
1 2 3 4 5	有向線分の始点, 終点ベクトルの大きさの定義を③④のように述べる ことができる。		2. ②「有向線分をベクトルと言う」をノートし, 記憶する。		第一, 第二の端点は矢線のどの部分をさすかを図示する。	
6	ベクトルとその大きさの表し方を上げることができる。		3. ③「ベクトルの端点の第一のものを始点, 第二のものを終点と言う」をノートし記憶する。			
練習			4. ベクトルは矢線で表し④「記号 $\overrightarrow{AB}$ , $\vec{a}$ , $\boldsymbol{a}$ を用いて表す」との説明を聞き, ノートする。			
7	ベクトルの例として, 平行移動, 力, 速度を上げることができる。		5. ④「有向線分(矢線)の長さをベクトルの大きさと言い $ \vec{a} $ , $ \overrightarrow{AB} $ などで表す」なる定義を聞き, ノートする。		板書を消す。	
A			6. ①～④が見ないで言えるかをたしかめる。			
			7. ベクトルで表した方が都合のよい例を考える。(問答法)			



<p>①</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>練習</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>13</p> <p>14</p> <p>15</p> <p>16</p> <p>17</p> <p>おわり</p>	<p>二つのベクトルが、同じ方向を持つ、同じ向きである。逆向きであるの定義を⑤のようにのべることができる。</p> <p>2つのベクトルが等しいの定義を⑥のように言える。</p> <p>簡単な図形（正六角形正八角形程度）の頂点を始点終点とするベクトルから、11で求められた作業をすることができる。</p> <p>ベクトルの和の定義を⑦のように言えるようになる。</p> <p>二つのベクトルの和を作図出来るようになる。</p>	<p>8. ⑤「平行移動によって二つのベクトルの始点を一致させたとき、始点と二つの終点が同一直線上にあるならば、二つのベクトルは同じ方向を持つといい、このとき、始点に関して二つの終点が同じ側にあるならば、二つのベクトルは同じ向きである、反対側にあるならば逆向きであるという」なる定義を聞き、ノートを取る。</p> <p>9. 最初は見て、後は見ないで言う。</p> <p>10⑥「二つのベクトルは、大きさが等しく、同じ向きのとき等しい」なる定義を聞き、ノートする。</p> <p>11. 正六角形の頂点を始点・終点とするベクトルの中から、等しいベクトル、同じ向きのベクトル、逆向きのベクトルを抽出する。</p> <p>12. 二つの平行移動をつづけて行なうとどのような平行移動となるかを考えることによって、二つのベクトルの和は、どう定義すべきかを考える。</p> <p>13. ⑦「一点Aを取り、<math>\vec{a}</math>に等しいベクトル<math>\overrightarrow{AP}</math>と、<math>\vec{b}</math>に等しいベクトル<math>\overrightarrow{PB}</math>を作る。このとき<math>\overrightarrow{AB}</math>を<math>\vec{a} + \vec{b}</math>とかく」なる定義をきき、ノートを取る。</p> <p>14. 二つのベクトルの和をノートに作図する。</p> <p>15. 正六角形の例で、あるベクトルが他のベクトルの和になっているものをさがす。</p> <p>16. 正六角形の例で、<math>\overrightarrow{BA} + \overrightarrow{AF}</math>  <math>\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AF}</math> <math>\overrightarrow{AE} + \overrightarrow{AB}</math> <math>\overrightarrow{AF} + \overrightarrow{BC}</math> <math>\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AD}</math> <math>\overrightarrow{AE} + \overrightarrow{AD}</math> を作図する。</p> <p>17. 次時予告をする。</p>	<p>定義が長いので図示し、その図の上で説明、その通りに言えるよう練習する。板書もする。向きと方向の区別をはっきりさせる。</p> <div data-bbox="1014 627 1189 937"> </div> <p>「O.H.P. に上の正六角形や移動できる矢線のシートを用意して活用する。⑦を板書する</p> <p>OHPを活用</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 4 理

## 科

### A 生徒実験のやり方

実験室は教室と違う雰囲気、また広く、生徒も騒ぎがちとなり、注意力も散まらになり、思わぬ事故を起こしやすくなるから、実験の事前・事中・事後にわたって生徒の指導をじゅうぶんに行い、指導の徹底を計ることが大切である。

#### ① 事前（実験計画時）の留意事項

- (ア) 実験の目的把握      まず、何のためにこの実験を行うのかを確認すること。
- (イ) 予備実験の実施      前もって十分やってみて、その手順、困難点、危険なところをよくつかんでおくこと。
- (ウ) 配当時間の予測      生徒は実験に不慣れであるから、教師実験の1.5～2.0倍くらいかかるとみてよい。
- (エ) 実験材料の計画      個別実験か、グループ実験かを明らかにし、薬品、器具の量を正確にかぞえておくこと。
- (オ) 実験材料の配置      実習時どの実験材料は、実験室のどこに配置しておくか効率がいのかの検討をしておくこと。
- (カ) 後始末の計画      次の時間に、別の学級の実験が続いて行われることもあるので、その点を考慮しておかなければならない。
  - ・あと始末の問題      あと始末は実習生がするのか、生徒にやらせるのか。このどちらかによって数分の違いがでる。そのどちらがよいかは、指導者の教育理念と学習内容の量にかかわる問題である。

#### ② 事中（生徒実験）での留意点

##### (ア) 生徒実験にかかる前での留意事項

1. まず、実験に関する諸注意がゆきわたる状況を確認してから説明に入ること。
2. 次に、この実験の目的は何か、それをはっきりさせておくこと。
3. 器具・薬品の説明：実験は、器具・薬品などを使うのであるから、器具の扱い方、機能、薬品の名称、区別、及びそれらのあとかたづけの仕方など、態度の面での育成に重点をおいた指導も心掛けておくこと。
  - ・器具の扱い方、機能については、生徒を前に集めさせ、実際にどのように扱うのかしてみたり、機能について説明したりして、実際の手順と操作など、生徒の目を通して説明するのが最もよい。
  - ・薬品については、まず配る場合、それを絶対に間違えてはならない。それを間違えてしまえば、危険を伴う場合があるし、そうでなくとも実験の価値は全くなくなってしまう。それを起こさないようにするためには、試薬の容器にレッテルをはったりするなど、色々な方法で徹底することが必要である。
4. 危険の防止：危険な事は、あらかじめ板書しておくか、あるいは口頭で知らせ、生徒に復唱させ確認させる。また、有毒ガスの実験の場合には窓を開け、教室の換気をはかるなど、生徒の保健、事故防止にじゅうぶん気をつけること。
5. 観察記録、データのとり方：観察のしかたやポイント、データのまとめ方、データの結果をどうするか、測定誤差の扱いなど、はっきりと頭に入れさせること。

(イ) 生徒実験中の留意点

1. 実験開始直前での生徒の管理、指導。ざわついた状態で実験に移ると、操作を誤ったり事故を起こしやすくなるので、生徒を静めておくことが大切である。そのためには、緊急事故のため実験を中止する場合の教師の合図（例えば、手拍子をうつとか、電灯を消すなど）を知らせておくとか、まず実験の手順・操作をグループで再認させるなど、いろいろな方法を考えておく。
2. 実験時間を決めておき実験を開始させる。実験中は机間巡視し実験前に言ったことが守られているかどうか。また、遅れている生徒（グループ）には手をそえるなどしてスムーズに実験を終えるようにすべきである。  
〈教生実習の場合、教生全員が実験助手として参加すると、実験指導の勉強になるので、指導教官の指示があれば積極的に協力すること〉
3. 決められた時間になったら実験を止めさせ、観察記録、データのまとめに入る。

(ウ) 実験の後の指導について

1. まず、全員の視線をこちらに向けさせ、次の指示が正しく伝えられるようにする。
2. 時間のある時は、データのまとめ、データの発表、討議、結果の整理など、データの取り扱いをどのようにするかをすばやく判断する。
3. あと始末をさせる場合は、むだのない指示を与え、これを徹底させ、しっかりとみとどけること。

**B 理科学習指導案の記載に用いられる表現の例**

- ① よく指導案の中で、〇〇を理解させる、とか、活用をはかる……という表現があるが、この場合留意しなければならないことは、知識や理解がどの程度までか、また、理解させたということをどのようにして知ることができるのか……であり、生徒の側から捉えられるように具体的な行動として、表わされる表現法を用いるのがよい。

【例】 知 識：命名できる、再現できる、選択できる、定義が答えられる

理 解：……が説明できる、……が一般化できる、分類できる、計算できる

観 察：記録する、比較する、写生する、みる、触れる

実 験：装置が組み立てられる、天秤で重さがはかれる、顕微鏡が正しく操作できる、  
温度計の正しい読み方ができる

- ② 見る能力と考える能力に関する表現の例

事実をありのままに見る能力

比較観察する能力

事実から推論する能力

総合的に判断する能力

問題をつかむ能力

分析的に判断する能力

すじの通った考え方をする能力

数量的にみる能力

普遍化する能力

原理を応用する能力

結果を予想する能力

- ③ 技術的能力に関する表現の例

資材、資料を集める能力

整理・整頓する能力

飼育・栽培する能力

④ 態度に関する表現の例

工作をする能力

材料をこなす能力

環境に興味をもつ態度

事実を尊重し、実証する態度

計画的に行動する態度

注意深く正確に行動する態度

協力してことに当る態度

自ら進んで究明する態度

道理を理解し、これに従う態度

根気よく物事をやりとげる態度

新しい考えをとり入れる態度

新しいものを作り出す態度

# C 物理の学習指導案例

(物理)学習指導案				昭和 年 月 日 曜 第 限			
				クラス	年 組	教室	
指導		教 官	担当者	学部 専攻 年			
本時の主題		放物運動			使用教科書		
単元 の 構 成	主題の配 列・時配 と 本時の位 置 ず け	第1章 運動と力 第1節 平面内の運動の表わし方 1. 速度ベクトル 2. 曲線運動の表わし方 3. 放物運動(2時間)……本時は1時間目					
	ね ら い	放物運動は、どのような運動かを、水平・鉛直に分けて理解させる。					
本時の 指導 目標	主 項 目 の 指 導 目 標	㊦ 水平方向は、等速運動であること。 ㊧ 鉛直方向は、加速度 $g$ の等加速度運動であること。 ㊨ 軌道の方程式は、放物線になること。 ㊩ 自由落下、投げ上げ、水平投射、斜め投げ上げはすべて同じ加速度 $g$ の等加速度運動であり、初期条件のちがいによること。					
	教材項目の配列・ねらい		メディアの活用 学 習 の 形 態	生徒の活動・指導上の留意点		時 計 画	配 施 実 施
導 入	・出欠点呼 ・理科Iの復習		発問	・自由落下と鉛直投げ上げは、加 速度 $g$ の等加速運動であるこ とを答えさせる。		5 分	
	・水平投射のデモ実験㉔		OHP デモ実験	・OHPで提示する。 ・投げたボールの運動の観察をさ せる。			
展 開	・水平投射の運動の予測		グループ討議	・速度、加速度、軌道の形の予想 を自由に話し合わせる。		25 分	
	・同時落球実験器のデモ 実験㉕ ・水平投射の運動		デモ実験	・同時に床につくことを目と耳で 確認させる。			
	・ストロボ写真による解 析 (水平投射)		発問 グループ討議	・水平方向の運動と鉛直方向の運 動に分解して考えさせ、鉛直方 向は、自由落下と同じになるこ とを答えさせる。			
			教科書 P15 図9	・速度、加速度の水平成分鉛直成 分を求めさせる。			

まとめ 参考	<ul style="list-style-type: none"> <li>水平投射のまとめ</li> <li>斜め投射の導入</li> <li>ストロボ写真による解析 (斜め投射)</li> <li>斜め投射の式</li> <li>自由落下、投げ上げ 水平投射、斜め投射の 共通点、相違点</li> </ul>	発問  発問 教科書 P 17図10  発問 グループ討議  発問 グループ討議	<ul style="list-style-type: none"> <li>水平方向は等速運動、鉛直方向は加速度の <math>g</math> の等加速度運動であることを答えさせる。ノートに筆記</li> <li>斜め投射の運動の予想をさせる。</li> <li>速度、加速度の水平成分鉛直成分を求めさせる。</li> <li><math>X</math> と <math>t</math>、<math>Y</math> と <math>t</math>、<math>X</math> と <math>Y</math> の式を答えさせる。</li> <li>共通点は、鉛直方向に加速度 <math>g</math> の等加速度運動であること、相違点は初期条件によることを答えさせる。</li> </ul>	15分
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめ</li> <li>次回の予告</li> <li>時間が余った場合             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 少しの場合は、まとめの前に、デモ実験⑥のくりかえしとまとめをていねいにする。</li> <li>② 10分ぐらい余った時は、問題を解かせる。</li> </ul> </li> </ul>	OHP         教科書 問 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導目標㉗～㉝の確認。 ノートに筆記させる。</li> <li>机間巡視の後、生徒指名し、板書させ、解説する。</li> </ul>	5分
事前の準備	教科書、導入とまとめのOHP、同時落球実験器、ボール			
留意メモ	同時落球実験器では、自由落下運動と、水平投射が同時に始まり、同時に床に着くことを、装置の構造を示し、十分納得させる。			

D 化学の学習指導案例

(化学)学習指導案		昭和 年 月 日 曜 第 限					
		クラス	年	組	教室	化学実験室	
指導		教 官 担当者			学部 専攻 年		
本時の主題		電解質と電離			使用教科書		
単元 の 構 成	主題の配 列・時配 と 本時の位 置 ず け	副単元の(3).....酸と塩基の反応 (計8時間) 主題 1. 電解質と電離..... (2時間) 本時は $\left(\frac{1+1}{8}\right)$ 2. 水素イオン濃度とpH ..... (2時間) 3. 塩の化学と中和..... (4時間) 副単元の(4).....酸化還元反応 (次単元 計9時間)					
	ね ら い	1) 電解質の強弱, 電離平衡の概念からイオン濃度を経て主題の2に接続させる。 2) 電流値の観察から弱電解質の電離平衡を予測させる。					
本時の 指導 目標	主 項 目 の 指 導 目 標	主項目①電解質と非電解質と②電離度とイオン濃度 ①の1) 実験に訴え, 電解質と非電解質, また, 電解質には強弱のあることを視覚的に捉えさせる。 2) 酢酸をうすめると, イオン化が進められることを実験的に確め電離平衡の概念が適用できることを予知させる。 ②の1) ①の情報から電解質と電離度の量的取扱いを学習させる。 2) ①の2) に質量作用の法則があてはめられることを知らせる。					
過程	教材項目の配列・ねらい	メディアの活用 学 習 の 形 態		生徒の活動, 指導上の留意点 (◆)		時 計 画	配 実 施
導入	1. 挨拶, 出欠点呼 2. 復習ア) 本時の学習に備えて, 前時に学習した化学平衡の要点を再認させる。 確認イ) 平衡時における濃度平衡定数(K)や反応速度定数(k)に対する濃度や温度との関係の把握。	2. のア) 板書による要点解説  2) のイ) 発問 (グループ討議) 机間指導 生徒指名 補足説明		2 のア) $H_2 + I_2 \rightleftharpoons 2HI$ を例として (g) (g) (g) ◆平衡の概念, 反応速度, 質量作用の法則化など再認させる。 2 のイ) ・濃度変化 (T一定) に対して, Kやkの値が正しく答えられるか。 ・温度変化 (濃度一定) に対して Kやkの値が正しく答えられるか。		2  8  10 (20)	
展開	① 電解質と電離平衡 1. 電解質と非電解質 ア) 電解質とその分類 ・どんなものがあったか。どんな分類ができるか。 イ) 電解質溶液の特性 ・電解質であることを, どのようにして確かめたらよいか。 ・電解質の溶液をうすめると, 電	1. ア) の発問 (グループ討議) ア) 板書(分類) 助言 質疑応答  イ) 発問 (グループ討議) 助言・質疑応答 板書・ノート指導  イ) 実験観察 (OHPによ		1. ア) 具体的な物質 (硫酸, 食塩) として答えられたか。 ア) 電解質が酸, 塩基, 塩として分類できることに気付くようになったか。  イ) 実験の方法, その装置について話し合い, 要点図を板書させる。  ◆同モル濃度の塩酸と酢酸水溶液を (1%) にくりかえしてうすめ,		6	

	<p>電流値はどのように変わるか。</p> <p>2. 強電解質と弱電解質</p> <p>ア) 電解質溶液の電離平衡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強(塩酸), 弱(酢酸)電解質水溶液の電離の状態は濃度変化と, どんな関係になっているか。</li> </ul> <p>イ) 弱電解質溶液の電離式</p>	<p>る拡大投影)</p> <p>ア) グラフ化</p> <p>ア) OHP (グラフ化) による助言・質疑応答</p> <p>イ) 板書 イ(解説)</p>	<p>電流値の変化をグラフに記録させる。</p> <p>ウ) 同濃度のとき, 酢酸の電流値の小さいことから, 水溶液中の分子, イオンの量を予測できるか。</p> <p>ウ) 酢酸の電離式が書けるか。</p> <p>ウ) 酢酸分子の一部が電離しているときの量的取扱いが適用できるか。</p>	<p>12</p> <p>12 (30)</p>
	<p>② 電離度とイオン濃度</p> <p>ア) 電解質と電離度(<math>\alpha</math>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電離度の定義と表わし方</li> </ul> <p>イ) 電離度とイオン濃度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電離度と濃度とを用いてイオン濃度を求める。</li> </ul> <p>ウ) 酢酸の電離定数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電離平衡と電離定数</li> <li>・電離定数と電離度の2項目を質量作用と関連づける。</li> </ul>	<p>ア) 板書活用</p> <p>ア) 解説</p> <p>イ) 板書</p> <p>イ) 基本問題の演習</p> <p>イ) 机間指導</p> <p>ア) 板書(質量作用の法則)</p> <p>ア) 質疑応答をくみいれて解説</p> <p>ア) ノート指導</p>	<p>●————— 休 み —————</p> <p><math display="block">\text{CH}_3\text{COOH} \rightleftharpoons \text{CH}_3\text{COO}^- + \text{H}^+</math></p> <p><math display="block">\left( \frac{\text{mol}}{\ell} \right) \quad \text{C} - \text{X} \quad \text{X} \quad \text{X}</math></p> <p>↓</p> <p>◆Xは電離によって失われたもの</p> <p>ア) 電離度(<math>\alpha</math>) = <math>\frac{X}{C}</math></p> <p>イ) <math>[\text{H}^+] = C\alpha</math> として求められるか。</p> <p>◆一般式 <math>\text{A} + \text{B} \rightleftharpoons \text{C} + \text{D}</math> のタイプに酢酸の電離式を適用し, 再認の形で電離定数を導きだす。</p> <p>ウ) <math>[\text{H}^+] = \sqrt{KC}</math> より <math>\alpha = \sqrt{\frac{K}{C}}</math> の形で引きだせるか。</p>	<p>10</p> <p>10</p> <p>20 (40)</p>
まとめ	<p>②の主項目に重点をおき再認の形で整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間に余裕があれば, 基本問題を演習させる</li> </ul>	<p>板書と口述質問</p> <p>プリント(基本問題)</p>	<p>◆ノートの整理, まとめができるよう留意して指導する。</p> <p>◆演習内容は②のア)イ)ウ) 題を演習させる。</p>	<p>10</p>
事前の準備	<p>1. 器具 電導性簡易試験装置(40W電球, ソケット, フィーダー線電極, 100V交流電源)</p> <p>大型試験管10本, 50ml液量計2コ, 100mlビーカー2コ, 洗びん1, OHP 1台</p> <p>2. 材料 0.1(mol/ℓ)のHClとCH<sub>3</sub>COOH, ショトウ, 方眼シート2枚, OHP用サインペン</p> <p>3. 印刷教材 プリント(基本問題)〇〇枚</p> <p>4. 指導案 (実習生, 教官用〇〇枚)</p>			
備考	<p>1) 主項目②の理解しやすくさせるため, 導入の2でややくわしく復習, 整理を計る。</p> <p>2) 主項目②の学習指導は助言を生かし, 思考をさせながら探究の形態で学習を進めたい。</p> <p>3) ②のア), イ) では, 溶液の濃度の概念と, その量的取扱いにポイントをおく。</p> <p>4) ②のウ) では, 質量作用の法則の一般式 <math>\text{A} \rightleftharpoons \text{B} + \text{C}</math> から導入, 展開を計る。</p>			

# E 生物の学習指導案例

(生物)学習指導案			昭和 年 月 日 曜 第 限			
			クラス	年 組	教室	
指導		教官	担当者		学部	専攻 年
本時の主題		コン虫の変態とホルモン			使用教科書	
単 元 の 構 成	主題の配 列・時配 と 本 時 の 位置づけ	単元 動物の発生 副単元 1. 卵発生の経過 2. 発生のしくみ (1) 形成体と誘導作用…………… 3 時間 (2) 動物の変態としくみ…………… 2 時間 (3) 核と細胞質の相互作用…………… 1 時間 上記(2)の主題 ① セキツイ動物の変態とホルモン ② コン虫の変態とホルモン (本時)				
	ね ら い	カイコを例として、ホルモンののはたらきにより、発生の後期に変態とよばれる急激な形態変化が起るしくみを理解させる。				
本 時 の 指 導 目 標	主 項 目 の 指 導 目 標	1. 実験を盛りこんだVTRを利用し、生命の神秘さについて、視覚的に認識させる。 2. 実験の結果について、深く考察する場面を盛りこむことにより、単なる受身の授業にならないよう配慮する。				
学 習 指 導 の 過 程						時 配
						計 画 実 施
導 入	1) コン虫、特にカイコの飼育経験をきいてみる。 2) 生糸生産の歴史などについて簡単に説明					5 分
展 開	1. VTR視聴のための予備知識の指導					5 分
	ア. カイコの生活史 板書しながら説明					3 分
	イ. 幼虫の内部構造 チャートを用い、内分泌器官を示す					
	ウ. 前胸腺とアラタ体のホルモンの働きの概要説明					2 分
	① 前胸腺ホルモンのはたらきと分泌状態					3 分
	② アラタ体ホルモンののはたらきと分泌の時期					2 分
	③ 両ホルモンの協同によるはたらき					
	2. ビデオ映写および途中における指導					
〔映写されるテープの内容〕					〔生徒への対応 (VTR停止)〕	
ア. 主としてカイコの生活史の説明					3 分	
イ. 熟蚕を用い、頭と胸の境を糸でくくる実験					5 分	
ウ. イの結果を示す場面					2 分	
					結果を示す場面の直前に停止し、予備知識に基いて結果を予測させる。 停止し、各自の予測を再検討させる。	



まとめ	エ. 胸と腹の境をくくる実験	結果を発問する。	3分
	オ. エの実験結果を示す場面		
	カ. 幼虫の解剖の実写	実物はかなりわかり難いので、前胸腺を指示する。	3分
	キ. 前胸腺の摘出と移植実験	移植された幼虫の変化について発問	2分
	ク. キの結果を示す場面		3分
	ケ. ガラス管で2ひきの幼虫をつなぐ実験		
	コ. 4令幼虫を使ってくる実験	停止して結果を考えさせる。	2分
	サ. 上記の結果を示す場面		2分
	シ. 分離腹部の交尾と産卵		
	3. まとめ		
事前の準備	① カイコでは、体の途中をくくったり、切り離したりしても死なない理由を簡単に説明する。		
	② 5令幼虫に、4令幼虫のアラタ体を移植するときの結果を考えておく宿題とする。		2分
留意メモ	1. VTRテープ NHK教育放送より録画したもの		
	2. チャート カイコ幼虫の解剖図		
留意メモ	単なる興味に陥らないで、生命の神秘さの感得、特に、発生のしくみとしてのホルモンのはたらきを、遺伝子と関連づける一つの手がかりとする。		

## 5 保 健 体 育 科

### A 保健体育科の学習指導について

#### ① 単元計画の作成について

実習期間中は、本校年間計画に該当する領域・内容による単元計画を作成し、担当する。単元計画の作成にあたっては、指導時間数・生徒の状態・施設・用具・学習効果などの条件をふまえて、①単元の学習指導のねらい、②各時間毎の学習内容、ねらいを明らかにする。

#### ② 指導案の作成・授業担当にあたって

体育の授業は、生徒が固定された場所に居ない、という他教科とは異なった条件がある。従って、生徒をいかに掌握し、学習させるかということが大きな課題となるだろう。

- (1) 積み重ねが特に必要な教科なので、前後の授業との関連を十分に考慮する。(前後の授業との関連で、やらなければならない内容もでてくる。)
- (2) 施設・用具・生徒数・生徒の状態・グルーピングなどの条件をしっかりとふまえる。
- (3) より効果をあげ、より安全に実施するための練習方法・練習形態を工夫する。(全習法・分習法・リードアップゲーム・興味づけなど。)
- (4) 運動量が妥当かどうか検討する。(部分だけでなく、1時間内での運動量も)
- (5) 指導案の作成にあたっては、授業担当時に生徒がどう動くか、どう反応するか、又用具などの移動も配慮して作成する。
- (6) 指導案の中に、生徒の隊形、動き方などを明記しておく。
- (7) 集団が移動するときは、個人が移動するときよりも時間が多くかかることを考慮する。
- (8) より少なく、より短時間にできる示範・説明などを工夫する。(隊形、位置、表現方法)
- (9) 生徒の状態を観察し、適切な指導、助言を充分に行なう。(矯正用語の工夫など)
- (10) 運動技能の指導のみに陥ることなく、社会的態度、および健康安全に対する態度なども合わせて指導する。
- (11) 怪我をした者がいないか確認する。
- (12) 用具の後始末。(個数などを確認し、収納する。)
- (13) 環境条件などを十分に考慮する。(指導案の計画通りにやらない方がよい場合、授業終了時間より早めに終わった方がよい場合などがある。)
- (14) 雨天などの場合を考慮して、副案を考えておく。(室内種目といっても、戸外種目の組が中に入ってきて、予定した広さが確保できないこともある。)
- (15) 指導案の例を出しておくが、これは紙面の関係上省略されている部分があるが、何枚にわたって書いてもよいのもっとこまかく記入すること。

## B 保健の学習指導案例

保 健 学 習 指 導 案				昭和 年 月 日 曜 限			
指導	教官	1 年 組 男 女 名	場所 教室	授 業 担当者	学部	専攻	年
項目	I 心身の機能			第 ( 2 ) 時目			
本 時 の 指 導 目 標	身体の各器官は、独自の機能を持ちながら、相互に深い関連をもっており神経系、内分泌系の調節作用により統合が図られていることを理解させる。						
本 時 の 学 習 内 容	I 心身の機能 1 身体の各器官の機能と統合性 1 身体の各器官の機能 (1)身体の構造と機能 (2)呼吸器系のはたらき						
事前準備	腎臓(腎小体)の模式図作成			用具 チョーク 模式図 画紙			
学習段階・時間	学 習 活 動			指 導 上 の 留 意 点			
導 入 5分	○挨拶 ○点呼 ○前時の復習			○前時に学習した内容が理解されているかを確認する。			
展 開	1. 身体の各器官の機能 (1)身体の構造と機能 P.66 腎臓の構造と機能を例とし、身体内部での調節の概要を知る。 神経系                      ) 内分泌系                  ) の腎臓に対する調節 腎臓の機能低下 ↓ 他の器官系統も機能低下 ・障害に陥ったときの病気 身体各器官の統合性    ) 身体各器官の協力      ) を知る (2)呼吸器系のはたらき P.67 ①呼吸器系とは { 外呼吸 { 内呼吸 ・呼吸器系の構造と機能 { 気道(鼻腔・咽頭・気管・気管支) { 肺(上葉・中葉・下葉) { 胸 部 { 呼吸筋			○模式図を掲示し、腎小体の構造・機能を理解させる。 ○調節機構は広範囲にふれ、一つの臓器に対してかなり多くの器官が関係していることを知らせる。			
25分				○障害に陥ったときの病気については、広範囲にふれる。 ○腎臓だけでなく、他の器官も相互に関係することを強調する。			
				○内呼吸については次時にふれる。			
15分				○教科書の絵、図を参照し構造的なものを説明し、機能面については次時以降にふれる。 ○機能面にもふれる。			
整 理	○まとめ (身体各器官の統合性、協力 呼吸器系の機能 ○次時の予告 ②肺とそのはたらき P68 ○挨拶						
5分				○模式図を撤去する。			

# C 体育の学習指導案例

体 育 学 習 指 導 案			昭和      年      月      日      曜      限								
指導		教官		授 業 担 当 者		学 部		専 攻		年	
指 導 クラス		2 年		組 <sup>男</sup> 女		( 16 ) 名		場 所   柔 道 場			
領 域 ・ 内 容			格 技 (柔道)			第 ( 3 ) 時 目					
本 時 の 指 導 目 標		大内刈りから体落としへの連絡技を学習することにより、連絡技の意味、効果を理解し、習得する。									
本 時 の 学 習 内 容		○連 絡 変 化    (大内刈りから体落としへの連絡変化) ○自 由 練 習    連続技のチャンスを覚える。既習の連絡技を実際の場面で使ってみる									
事前準備				なし				用   具      なし			
学習段階・時間	学習内容		学   習   活   動				指 導 上 の 留 意 点				
導  5分	集      合 挨      拶		当番は掃除をする。 4列従隊で整列し、正座する。 座礼で挨拶する。				○生徒の健康状態に留意する。 ○座りかた、正座の姿勢に留意する。 ○座礼のしかた、立ちかたに留意する。				
	準 備 運 動		当番制のリーダーを中心に行なう (徒手体操 補強運動)				○この間に出欠を確認する。 ○大きく可動範囲いっぱい運動させる。 ○不足の場合には補なう。				
	受   け   身		前回り受け身を4列縦隊で4往復する。 (・間隔を十分にとる。 ・後戻りをしない				○各自の能力に応じ、できるかぎり大きくとばせる。 (・手の付きかたに留意する。 ・足の踏み込みの方向に留意する。				
入	かかり練習		各自自由に相手を選び、得意技数種で20回ずつ4人と行なう。 20回ずつ終わった者同志で自由に交代する。				○各自で評価し、修正させる。 (・立礼のしかたに留意する。 ・引き手の方向に留意する。 ・体さばきのしかたに留意する。 ・相手との位置関係に留意する ・体力に応じたかけかたに留意する。				
	10分		早く終わった者は (技の研究 柔道着の乱れを直す 他の者のかけかたを見る				○いろいろな体型の者と組ませる。				

展 開	連 絡 技 大内刈りか ら体落とし	<p>教師の説明を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先の技での崩れをたてなおす動きを利用することを理解する</li> <li>・技をかけるタイミングを理解する。</li> </ul> <p>約束練習</p> <p>各自自由に相手を選び練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受がとまったまま体さばきを練習する</li> <li>・受が動きながらタイミングを練習する</li> </ul> <p>受は大内刈りをかけられたとき上半身の動きをオーバー気味に行なう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大内刈りがきかなかったとき</li> <li>・大内刈りをフェイント的に利用するとき</li> </ul> <p>○受の逃げかた、防ぎかたによりタイミングが異なることを理解させる。</p>
	自 由 練 習	<p>各自自由に相手を選び、3分ずつ6回のうち、4回以上行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体力に応じて行なう。</li> <li>・2回連続で休まない</li> <li>・うでの力でこらえない</li> <li>・強引にたおさない</li> <li>・投げたら、袖をもって腰を伸ばす</li> </ul>	<p>○いろいろな体型の者と組ませる</p> <p>○休憩中の者の態度、学習内容に指示を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技をかけられたときの防御の動きに注目する。</li> </ul> <p>○連続技を多く使わせる。</p>
30分			
整 理	整 理 運 動	<p>教師を中心に行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徒手体操</li> </ul>	○ゆっくり大きく行なわせる。
	集 黙 想 換 拶 散	<p>4列縦隊で整列し、正座する。</p> <p>目をつぶり、気持を落ち着かせ本時の反省を各自で行なう。</p> <p>座礼で挨拶する。</p>	<p>○座りかた、正座の姿勢に留意する。</p> <p>○座礼のしかたに留意する。</p> <p>○立ちかたに留意する。</p> <p>○汗など、身体の始末をしっかり行なわせる。</p>
5分			

⑩ この指導案例では、紙面の関係上かなり省略されているが、実習生諸君は、指導案用紙を何枚使用してもよいので、さらに詳細に作成し記入をすること。

## 6 英 語 科

### A 英語 I の学習指導案例

英語 I 学習指導案		指導教官			
授業担当者	氏名	大学	学部	専攻	年
<p>I. Date: Friday, October □, 198□</p> <p>II. Class: A -Class of the 1st year(IA), the Attached Senior High School to the Faculty of Education, Kanazawa University</p> <p>III. A BETTER GUIDE TO ENGLISH I, KAITAKUSHA</p> <p>IV. Unit: Lesson 10 "A TIME FOR COURAGE"</p> <p>V. Aim: 1. Culturally, to help the students, through English, make out a firm promise made between brothers, and a strong endurance to overcome the torture of a hurt on the knee in order to make them realize how much dignity and worth the life of a human-being has</p> <p>2. Linguistically, to help the students get familiar with new words, phrases, and so on by means of practice and application;</p> <p style="padding-left: 40px;">words: courage [kʌrɪdʒ], frontier [frʌntjər], complain [kəmpleɪn], prayer [preə], forehead [fɔːrɪd], probably [prɒbəbli]</p> <p style="padding-left: 40px;">phrases: come...ing, complain about..., be up at six and do his work, would rather..., explain to... what..., go out of one's head, never allow... to..., neither... nor..., feel like...ing, remain firmly on guard, advise... to..., give way, stand staring at..., go down on one's knees, take part in..., keep...ing, to face life</p> <p>IV. Period Allotted: 8 in all, this period being the 1st one</p> <p>VII. Stressed points this period:</p> <p style="padding-left: 40px;">1. Through the first two or three pages of this lesson, to make the students realize how important is the first treatment for a little hurt on the knee, without the care of which it will have a dangerous effect upon the patient</p> <p style="padding-left: 40px;">2. After repeated practice, to make the students advance in their expression of the new uses of the words or word groups</p> <p style="padding-left: 40px;">3. Pronunciation of the new words</p> <p>VIII. Preparation this period:</p> <p style="padding-left: 40px;">Tapes for LL or the cassette tape recorder, OHP with pieces of TP and its screen, division of the students into five groups, papers for review test (to be given to each student before this period begins), two assistant students beside the teaching table (if an American or any native speaker of English can be present to help the students read the text, no equipments except OHP will be required in the class)</p>					

IX. Teaching Procedure :

A. Review(16 min.)

1. Students' reading of the indicated materials studied in the previous period (R)  
N. to make them read within comprehension  
Ev. to record by checking the reading ability
2. Ascertainment and practice of the stressed points in the previous period by means of application or replacement (GHC)  
N. to apply the same new usage to other cases by replacement of other words  
Ev. to ascertain applying ability  
P. OHP, TP to be used
3. Announcement of English composition as a homework including the indicated points  
N. to make students announce the same composition twice and to make the other students catch the meaning of what has been said  
Ev. to record the expressing ability  
P. TP to be used by students (HR)
4. Dictation or Test of three or four words and one sentence which were learned in the previous period and were comparatively important (HCW)  
N. to say the same important point three times  
Ev. to observe students correcting exchanged papers, walking among desks  
P. TP not always to be used and test papers to be offered in advance  
Ass. to check the papers after collecting them

B. Introduction(7 min.)

1. A brief explanation of the content of the new material which will be learned this period (H)  
N. to make the students take care of the way of reading  
Ev. to observe whether they can listen within comprehension  
P. TP to be used
2. A brief explanation of new points(mentioned above), by pointing out their lines and pages (GH)  
N. to make them hold special figures of the new points  
Ev. to observe their comprehensibility  
P. TP to be used

C. Material to be learned this period(27 min.)

(RH)

1. To make students read each paragraph to grasp its outline; three times to be repeated  
N. to make them read at as moderate a speed as to be under-

stood; to make them sum up the content of the paragraphs they've read, without looking at the textbook

Ev. to observe whether they can read

2. To make students answer to the questions of the outline or content under no restraint of looking at or reading their textbooks (H)(C)(S)

N. to be repeated several times

Ev. to observe whether they can answer completely

3. To make students read the sentences dy using another easier English if necessary; sometimes by paraphrasing, giving examples and explanations, or by practicing (G)(S)(C)(W)(H)

N. to make them think in English and say in English by supplying them with helpful, adequate paraphrases to make them comprehend and apply usages

Ev. to observe whether they can do so

P. TP to be used

4. To make students read, not in individually but in chorus(group or class) after the teacher(native speaker of English, if possible) or the tape(tape recorder or LL) (H)(R)

N. to make them read under a precise punctuation to have each group read alternately

Ev. to observe whether they can read

P. a tape and a recorder or LL

5. To make students ask questions and find out the answers through mutual discussion in group (G)(H)(S)

N. to grasp the real state of the students, learning by walking among the desks

Ev. to observe whether they can be positive or active in studying

6. To make students read the new stressed points dy means of TP after the teacher, and assign some homework to the students to make English composition without forgetting the use of the new points (H)(R)

N. to be read twice for each sentence to decide the next TP maker (H)(R)

P. TP to be used

Notes: —

1. Two assistants:

In each period these two persons must assist the teacher in instructing especially in handling instruments

2. Marks:

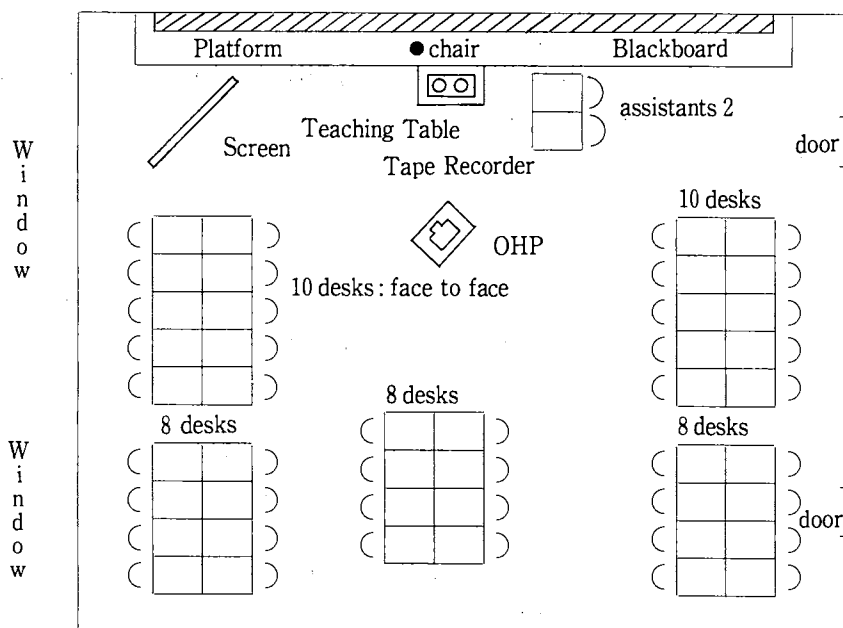
N. = Noticeable point

Ev. = Evaluation point



- P. = Preparation  
 G. = to be stressed on Grammatical point  
 R. = to be stressed on Reading      S. = to be stressed on Speaking  
 H. = to be stressed on Hearing      W. = to be stressed on Writing  
 C. = to be stressed on Composition

3. Arrangement of the desks in the classroom :



4. A sample of TP piece :

He explained to { both the parents  
me  
his father  
the crowd  
⋮ } what would happen.  
that .....  
how .....  
whom .....  
⋮

N.B.

{ explain + O (+ to~)  
                  を          に  
explain to ~ clause  
                  に          を

B 英語Ⅱの学習指導案例

英語Ⅱ 学習指導案		指導教官			
授業担当者 氏名		大学	学部	専攻	年
Ⅰ. 日 時 昭和 年 月 日 曜日 第 時限					
Ⅱ. 学 級 第 学年 組 名 (男 名 女 名)					
Ⅲ. 教 科 書 A BETTER GUIDE TO ENGLISH READING 2, KAITAKUSHA					
Ⅳ. 単 元 名 Lesson 11 Writing Between The Lines					
Ⅴ. 指導目標 A) 内容について					
読書法を説いた論文を通して、読書について考えさせる。論の展開や説得の技法について、文章構成の面からも考えさせる。					
B) 語法について					
新出事項の理解と運用を計る。主として「時」に関する句節の副詞的な働き only when ～, not until ～, each time ～, once ～, in the course of ～, on-ing や、他に not ～ because ～等。					
Ⅵ. 指導計画					
この単元を指導するには、次のように時間配当して、6 時間を用いる。					
1 Three Paragraphs, up to P. 75, l. 3 (本時)					
2 Two Paragraphs, up to P. 76, l. 4					
3. Two Paragraphs, up to P. 77, l. 7					
4. Two Paragraphs, up to P. 78, l. 9					
5 Two Paragraphs, up to P. 79, l. 12					
6 Activities (Repeated Reading, Review, Checking)					
Ⅲ 本時の指導目標 (読み®、書き®、聞く®、話す®の balance をとるよう配慮)					
1 内容について					
本を買うということは何を意味するか。行間にものを書くということは何を意味するか。本を読むことの関連はどうか。そうした作者の意見を理解させる。					
2 語法について (文法事項®には必ず例文数例を用意する)					
I would like you to V; in the course of ～; only when ～; not until ～ の理解と運用。					
3 単語について					
equally[í : kwəli], unless[ənlés], efficient[ifi/ənt], injury[índʒəri], ownership[óunəʃip], furniture[fé : nit/ər], prelude[prélju : d], illustration[íləstréi/fən], stake[steik], absorb[əbsó : b], blood[bləd] 等。					
Ⅷ 本時の準備					
O.H.P. とスクリーン、電気コード、指示棒、テープコーダー、カセットテープ、外人生徒(もしあれば)、小テスト用ペーパー(事前配布)、教室内の机の配列をグループ別に配置。					

指導事項	学 習 活 動		時間	指導上の留意点	評 価	準 備
	言語活動	活 動 内 容				
A 復 習	(挨拶、点呼)		1'			
1. 前時教材の読み	1. 生徒による読み。数名 ㊞	1. 本文の重要箇所を指定、それを読ませる。	2'	1. 理解しながら読む	1. 読めているか(記)	O.H.P TP
2. 前時事項の練習	2. 例文による確認と練習(cue) ㊞㊞㊞	2. Rel. Pron. としてのwhat, such~as~, whoever~(n.)	6'	2. 同一語法の展開に(置換え)	2. 応用性を確める(記)	
3. 課題発表	3. 前時の新出事項を含めた作文を発表㊞㊞	3. 家で作文したものを任意に(時に順に)発表させる	3'	3. 2回言わせて、聞きたらせる	3. 発表力を(記)	
4. 書取りテスト	4. 問 答 ㊞㊞㊞	4. 3 題位。説明された単語を書かせる。長い文を一文にさせる	4'	4. 同じことを3回言って次に移る	4. 隣りと交換(観)	TP テスト用紙(事前)
B 導 入						
1. 内 容	1. 説 明 ㊞	1. 平易な英語でポイントをまとめて言う(本の所有等)	2'	1. 読みとり方に注意させる	1. わかって聞くか(観)	TP
2. 新事項	2. 説 明 ㊞㊞	2. I would like you to V, in the course of~, only when~, not until~	5'	2. would like to V との違いに展開。「~してはじめて」の訳について	2. 理解されるか(観)	TP
C 本 文						
1. 大意把握	1. 生徒に読ませる ㊞	1. Paragraph 毎に読ませる。3回繰り返す	5'	1. わかる速度で読ませる。本をとじて内容を簡単に言わせる	1. 読めているか(観)	TP
2. 問 答	2. 教科書を見させたまま、問答 ㊞㊞㊞	2. 筋について、内容について	4'	2. 何回か繰返ししながら英問英答を徹底する	2. わかった応答を(観)	
3. 全 訳	3. 日本語のない全訳も時としてやらせる ㊞㊞㊞㊞㊞	3. 難解な部分の Paraphrase または他のかわり易い英語での表現。例文と説明と練習(適切に質問を入れる)	10'	3. 補足的な補助や新語法の理解と運用を計る	3. 英語で考え英語で言うか(観)	
4. 続 み	4. model and chorus reading (or Tape)㊞㊞	4. 教師(または外人かテープ)の読みに続けて生徒に読ませる	5'	4. 確かな区切りで読む。グループ毎に交互に読ませる	4. 読めているか(観)	Tape と Corder
5. 質 疑	5. 本時学習の質問をさせる	5. グループ内で互いに質疑応答	2'	5. 机間巡視によって大勢を把握する	5. 積極性を(観)	
6. まとめ	6. 新出事項の整理と宿題の提示 ㊞㊞	6. 教師のあとに続けて読む。新出事項を含めた作文を作ることを申し渡す	1'	6. 2回づつゆっくり読む。T.Pの準備		TP

## 7 家 庭 科

### A 家庭科の学習指導について

#### ① 家庭一般における指導内容と時間配分

題材を何時間扱いにするかを決める場合、実習にどれくらい時間を取るかによってずい分内容が制限されてくる。特に時間が取られるのが被服の実習であるが、予定時間内で実施可能な適切な教材を選び、見通しを持って綿密に計画をたて、単に物づくりに終らぬよう、理論と実習が遊離しないように時間の配分に留意する。調理実習でも同じことがいえるが、一時限単位の授業であるから、実習は昼食時間あるいは放課後の時間も利用しないと行えない。そのため一食分として整った献立の調理実習は到底無理で、せいぜい二品目位とし、それも時間に追われて作って食べるだけということのないように、目標、内容を充分検討し、一実習につき、三時限を費やすようにして指導の徹底を図るとよい。すなわち、第一時は理論・計画、第二時実習、第三時反省・整理という段階を取るようにする。

#### ② 実験・実習について

本校では被服の実習として、ワンピースを題材として取り上げているが、季節を考慮し、二年の一学期に実習している。生徒の個性が発揮され、創造的、発展的な学習が行なわれるよう指導法、指導の形態を工夫し、学習の効果が上がるようにする。又生徒個々の技術の定着度がどの程度であるかを早く把握し、個別指導の徹底をはかることも大事である。

調理実習は8回位の予定で、朝・昼・夕食、和洋中華、季節、家族、郷土・行事食等を考慮し、調理法をすべて網羅するように組み合わせ計画を立てる。その際中学での既習のものを調査しておくといよい。

実験学習については、指導内容により、とかく講義中心に偏り、抽象的になりやすい場合、体験を通して理解を深め、学習への興味と関心を高めるためにもできるだけ多く取り入れるようにするのが望ましい。実験・実習を行なう際の留意点としては次のようなことがあげられる。

- (1) 特別教室での授業では、生徒の緊張がゆるみ、私語が多くなりやすい。必要以外のことは話をしないようにさせ、注意を与える時は手を休ませ、一斉に注目させるようにして指導の徹底をはかる。
- (2) 実習中は怪我や火傷などに気を付けるよう、安全指導を徹底させる。
- (3) 生徒の作業をよく観察し、机間巡視をしながら個別指導をする。間違いがあればそれが全体に注意を与える必要のあるものなら、すぐその場で指示を与える。失敗もよい学習例として生かすようにするが、学習意欲を削がないためにも失敗はできるだけさけるよう、事前に予備実験・実習をかならずして注意事項を細かく検討しておく。
- (4) 調理実習は一時限で終らなければならないので、下ごしらえなど準備は休憩時に行い、実習は能率的に進むよう留意し、次時に食い込まないよう気を付ける。
- (5) 調理実習の材料購入は生徒に指示し、前日の放課後買い物をさせる。生徒購入がよいか学校で一括購入がよいかは一長一短であるが、本校ではクラスが少人数であることと、近くにスーパーや商店が多いことから生徒に購入させている。その際、材料の選択について適切な助言が必要である。
- (6) 学習した実験・実習内容はできるだけ家庭でも実践しようとする意欲を喚起し、ホームプロジェクトに発展させるようにする。

## B 家庭一般の学習指導案例（その1）

家庭科学習指導案			昭和    年    月    日    曜    第    限									
			クラス	年    組	教    室	家庭科教室						
指    導	教    官	担    当    者	学    部                    専    攻                    年									
題    材	日    常    着    の    製    作   （ワンピースドレスの製作）											
本    時    の 目    標	1. 仮縫いの必要性を理解させる。 2. 仮縫いのしかたの要点を理解させ、技術を習得させる。											
学 習 内 容	1. 仮縫いの必要性 ● 体に合わせることと欠点をカバーすること。 ● デザイン上の検討    ● 機能性 2. 仮縫いの順序と方法 ● 縫い方順序    ● 糸、針目、縫い方の要領											
指導計画 時間配当	<table><tr><td>① 被服の構成とデザイン…… 2 時間</td><td rowspan="4">{ 裁断…………… 2 時間 仮縫い・補正…… 3 時間（本時第1時） 本縫い……………10時間 仕上げ・着装…… 2 時間</td></tr><tr><td>② 製作の設計…………… 3 時間</td></tr><tr><td>③ 縫製……………17時間</td></tr><tr><td>合    計                      22時間</td></tr></table>						① 被服の構成とデザイン…… 2 時間	{ 裁断…………… 2 時間 仮縫い・補正…… 3 時間（本時第1時） 本縫い……………10時間 仕上げ・着装…… 2 時間	② 製作の設計…………… 3 時間	③ 縫製……………17時間	合    計                      22時間	
① 被服の構成とデザイン…… 2 時間	{ 裁断…………… 2 時間 仮縫い・補正…… 3 時間（本時第1時） 本縫い……………10時間 仕上げ・着装…… 2 時間											
② 製作の設計…………… 3 時間												
③ 縫製……………17時間												
合    計                      22時間												
準    備	<table><tr><td>● 仮縫いしたワンピースの見本</td><td>● 裁縫用具</td></tr><tr><td>● 仮縫い・補正のプリント</td><td>● 裁断した布</td></tr><tr><td>● 人台</td><td>● 作業記録表</td></tr></table>						● 仮縫いしたワンピースの見本	● 裁縫用具	● 仮縫い・補正のプリント	● 裁断した布	● 人台	● 作業記録表
● 仮縫いしたワンピースの見本	● 裁縫用具											
● 仮縫い・補正のプリント	● 裁断した布											
● 人台	● 作業記録表											
過    程	時    間	学    習    活    動	指    導    上    の    留    意    点			資    料・用    具						
導    入	(分) 5	● 裁断した布を確認する。 ● ワンピースの組み立てを調べる。	● しるしつけで合じるしなどつけ忘れがないか確認させる。									
展    開	15	● 仮縫いの必要性について考える。  ● 仮縫いの順序を各自調べる。  ● 仮縫いの方法について要点を知る。	● 体型はそれぞれ違うので、体に合った着やすい服を作るためにも仮縫いの効果を知らせることが大切である。 ● 本縫いに順ずればよいので縫い方順序を検討させる。 ● 見本を見せ、示範をして要点を把握させる。 ● 仮縫いをして補正の必要がない部分はそのまま本縫いに使えるよう考えて縫うようにする。 ● 待針の打ち方、縫い初め、縫い終わり、針目のあらさ、糸こきなどに注意する。 ● 正確に能率的に進めるよう留意する。			人台 仮縫いの ワンピース 見本 裁断した布 裁縫用具						
開	25	● 仮縫いをする。 ダーツ、肩、わき、そで下				仮縫い・補 正のプリン ト						
終    結	5	● 予定の仕事が正しくできたかどうか確認する。 ● 作業記録表をつける。 ● 後始末をする。				作業記録表						

C 家庭一般の学習指導案例 (その2)

家庭科学習指導案		昭和    年    月    日    曜    第    限				
		クラス	年    組	教    室	家庭科教室	
指    導	教    官	担    当    者		学    部	専    攻    年	
題    材	(調理 1) 親子どんぶり・すまし汁					
本    時    の 目    標	1. 米の炊き方, だし汁の取り方, 材料の切り方, 調味の仕方など, 調理の基礎的知識の修得をはかる。 2. どんぶり物の卵とじの仕方, すまし汁の作り方の要領を修得させる。 3. 調理実習の計画がたてられるようにする。					
学    習    内    容	1. 親子どんぶりの作り方 • 米の炊き方    • 材料と切り方    • 煮汁の作り方    • 卵とじの仕方 2. すまし汁の作り方 • だしの取り方 (一番だし, 二番だし) • 材料と切り方    • 調味の仕方 3. 実習の計画 • 準備        • 手順					
指    導    計    画 時    間    配    当	調理 1    親子どんぶり・すまし汁…………… 4 時間 ① 調理と食品…………… 1 時間                      ③ 調理実習…………… 1 時間 ② 献立と調理…………… 1 時間(本時)            ④ 実習の反省・整理…………… 1 時間					
準    備	• 米の吸水量のグラフ                      • かつお, 塩, しょうゆ                      • 胚芽米 • 親子なべ                                      • 計量カップ, スプーン                      • こんろ, なべ • 味見用小皿                                  • ふきん                                      • 作業計画表					
過    程	時    間	学    習    活    動			指    導    上    の    留    意    点	資    料    ・    用    具
導    入	(分) 5	• どんぶり物, 汁物の種類について話し合う。 • 本時の目標を把握する。			• 食べたこと, 作ったことのあるものをあげさせる。	
展	20	• 米の炊き方について既習事項をまとめ, 胚芽米の炊き方を知る。 • だしの種類とだしの取り方を実演により知る。  • 材料の分量及び切り方を知る。  • どんぶりの煮汁の作り方を知る。			• 米と水の量, 浸水, 炊き方について白米と比較させ, 胚芽米は洗ってはいけないことを注意する。 • うまみ成分を知らせ, 上手にうまみを取り出すには, かつおを煮すぎないように注意し, 手早くふきんでこす。 • 実習時には一番だしと二番だしの味, 色, 香りを比較させることを指示する, • どんぶりの具は飯の $\frac{1}{3}$ ～ $\frac{1}{2}$ 量, すまし汁の実は汁の $\frac{1}{3}$ ～ $\frac{1}{2}$ 量が適当で, 切り方はそれぞれ大きさに注意させる。 • 煮汁のだしは二番だしを使い, 煮物の調味の仕方を知らせる。	米の吸水量のグラフ 胚芽米 かつおぶし こんろ なべ ふきん

開	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>● どんぶりの具の煮方と卵とじの要領について話し合う。</li> <li>● すまし汁の調味の仕方を知る。</li> <li>● だし汁に調味をして味見をする。</li> <li>● すまし汁の実の煮方、入れる時期について話し合う。</li> <li>● 調理の手順について、グループで責任者を中心に話し合う。</li> <li>● 材料購入にあたっての留意点を話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 親子なべの使い方を説明し、一人分ずつ作ることを知らせる。</li> <li>● 具は煮すぎないようにし、卵を半熟にするにはどうすればよいか考えさせる。</li> <li>● しょうゆの分量、入れる時期に注意させる。</li> <li>● 計量の仕方を確認させるため、生徒に計量スプーンで調味料を計らせ、前に取っただし汁に味つけさせる。</li> <li>● 汁の塩分濃度は1%が標準であるが好みには個人差があることに気づかせる。</li> <li>● とうふは煮すぎない。</li> <li>● どんぶり、すまし汁共に汁が蒸発しすぎないように火加減に注意させる。</li> <li>● どんぶりとしまし汁はさめないように同時に出来上がるよう考えさせる。</li> <li>● 各班の計画表の提出を指示する。</li> <li>● 買い物の責任者を確認し、購入すべき材料を指示する。</li> </ul>	<p>親子なべ</p> <p>塩 しょうゆ 計量カップ 計量スプーン 味見用小皿</p> <p>作業計画表</p>
終 結	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時のまとめをし、不明の点を明らかにする。</li> <li>● 次時実習の準備について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 材料の準備、米の浸水、身仕度を忘れないようにさせる。</li> </ul>	

# 8 芸 術 科

## 美術の学習指導案例

2 年      美術 科 学 習 指 導 案				昭和	年	月	日
指 導		教 官	授 業 担 当 者	学 部	専 攻	年	
氏 名							
題 目		ポスター（課題 A.ごみを持ちかえろう B.自然観察をしよう）					
学 習 内 容		1. ポスターの課題を知り、先輩達の作品や、入賞作品の鑑賞をする。 2 時限 2. 構想をねる。 2 時限 3. 水張りをする。 1 時限 4. 制作（レタリングと配色） 4 時限（本時は第1 時） 5. 鑑賞 1 時限					
本 時 の 目 標		1. レタリングの基本を生かし、図柄に調和した書体を考えさせる。 2. より効果的な配色計画をさせる。					
段 階		学 習 活 動		指 導 上 の 留 意 点		時 間	
導 入		○ 図柄に調和した書体を考える。 • レタリングの基本形 明朝体      ゴシック体 創作文字		• 文字で人目をひくか、図柄で人目をひくかで書体や配色が変わることに気づかせる。		10分	
展 開		• スケッチブックに自分が選んだ書体で文字のアイデアをねる。 ○ 対照の配色と類似の配色 • 色相の類似と対照 • 明度の類似と対照 • 彩度の類似と対照 • トーンによる類似と対照 • グラデーションによる配色		• いたずらに変形した文字は読みづらいことに留意させる。 • 実物のポスターを例に、いろいろな文字と図柄の関係を見せる。 • 日本色研の配色パネルによって類似と対照の配色例を提示する。 • 類似による配色の中のアクセント(対照)の効果や濁色と純色の上手な使いわけを話してやる。		30分	
終 結		○ 自分の表現にふさわしい文字の書体と配色をきめる。 • スケッチブックにおおまかな計画を描かせる。 ○ 水張りした画用紙への予告		• 色鉛筆やクレヨンによるラフスケッチをさせ、仕上がり効果を予想させる。 • トレーシングペーパーの準備		10分	